



みやぎ生活協同組合

CSR REPORT

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2014

2013年度社会・事業・環境活動についての報告書



食品の
安全・安心



メンバー&
社会貢献活動



事業活動



環境活動



COOP
MIYAGI

CONTENTS

理念・ご挨拶	01
みやぎ生協とは、コープ東北とは	02
〈東日本大震災〉 築こう未来 希望の明日へ 地域での役割の發揮を目指して	04~15



第1章 食品の安全・安心の取り組み

食品の安全を確保する仕組みをより確かなものへ	16
産消直結「めぐみ野」	18
顔とくらしの見える産直をさらに広げました	21



第2章 メンバー活動

人と人がふれあう機会をつくり自主的でいきいきとした メンバー（組合員）活動を進めています	22
食の活動と子育て支援	23
くらしと豊かな地域づくり	24
平和とくらしの見直し活動	25
地域社会への貢献	26



第3章 事業活動

くらしに役立つ事業活動のために	
店舗	28
共同購入	29
くらしのサービス	30
こーぷ福祉会	31
学校部・(株)宮城県学校用品協会	32
コンプライアンスの徹底	33



第4章 環境活動

かけがえのない自然・環境を未来に残していく 取り組みを進めています	
理念・方針	34
低炭素社会構築に向けて	35
循環型社会構築に向けて	36
環境に配慮した地域社会の構築に向けて	37
商品事業における環境配慮	38
外部環境監査、ISO審査、内部環境監査	39
2013年度 生協活動と環境のかかわり	40

協同組合の定義・価値

1995年9月に開催された国際協同組合同盟(ICA)100周年記念大会で採択した21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す協同組合原則。

◎定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

◎価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。



【みやぎ生協のめざすもの】

わたしたちは、協同の力で、 人間らしい暮らしを創造し、 平和で持続可能な社会を実現します。

東日本大震災・東京電力福島第一原発過酷事故から3年がすぎました。みやぎ生協はこの3年、日本生協連・医療福祉生協連・コープこうべ・全国の生協・諸団体・お取引各社のご支援を継続的にいただきながら、被災者の暮らしと被災地の再生を応援する事業と活動をすすめてまいりました。4つのボランティアセンターを中心に、仮設住宅集会所とみやぎ生協施設でのふれあいの活動はのべ約1,800回、ボランティア人数はのべ約1万5千人、参加者数は約7万4千人となっています。生産から加工、流通までの234団体が参加する「食のみやぎ復興ネットワーク」は、地域産業と生産者への復興応援「つくる、食べる、ずっとつながるキャンペーン」を取り組みました。大震災からの復旧・復興を一歩一歩前にすすめておられる関係者のみなさま、ご支援をいただいたすべての方々に、心からの敬意と感謝を表します。

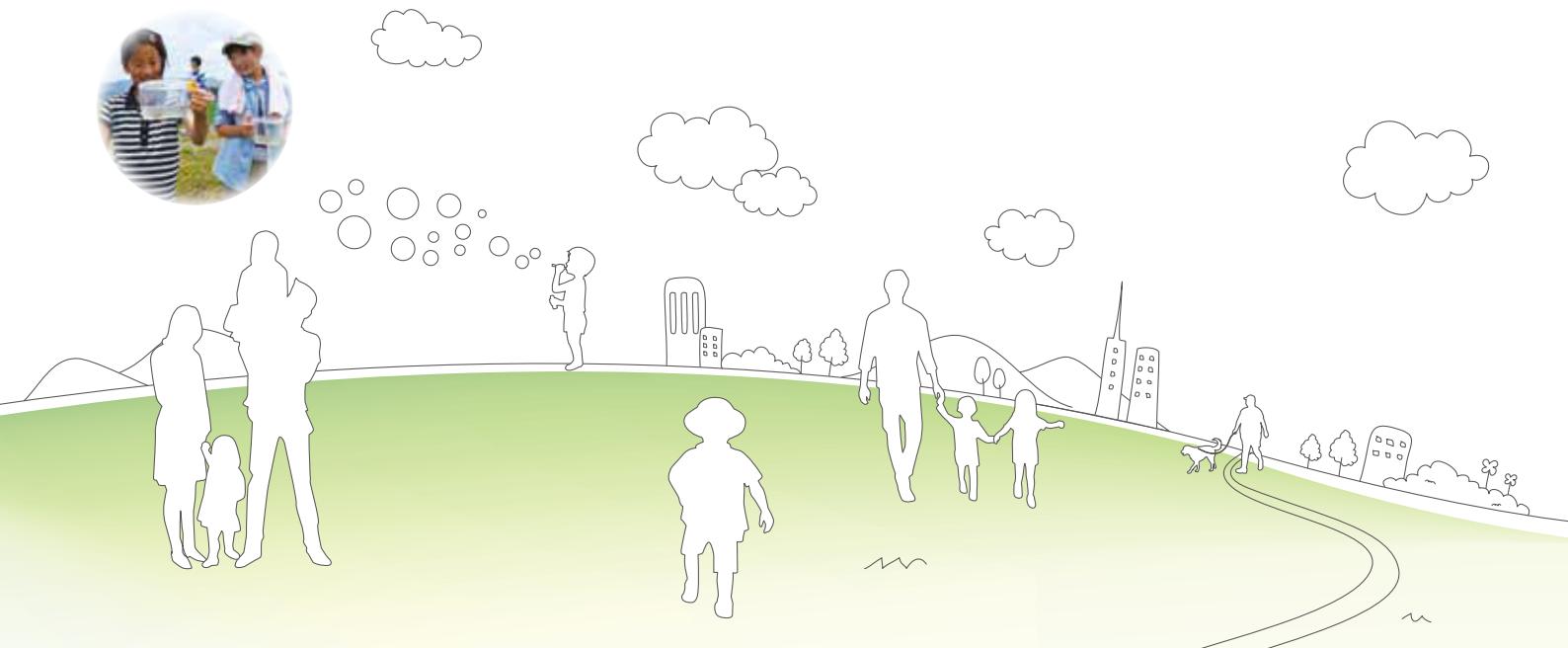
2013年度、共同購入部の2センターを環境配慮事業所として建替えるとともに、太陽光発電設備設置事業所は新たに3事業所を加え11事業所に広がりました。生協事業におけるCO₂排出総量削減の取り組みは、2005年度比で削減量4,880トン(▲11.4%)と着実にすすめました。事業から発生した排出物の再資源量は15,673トン(再資源率79.0%)、メンバーの協力による分別回収再資源量は15,483トン(前年比114.6%)と増加しました。放射性物質検査は、「めぐみ野(産直品)」品に加え、コープ商品やアクアクララ水、一般市場品の農畜水産物に広げました。新たに「くらしと家計の相談室」を開設、相談者に寄り添い、くらしの再生・改善・解決策と一緒に考える「生活相談・家計再生支援貸付事業」を開始しました。

みやぎ生協は設立の礎となった創設者たちの意思を受け継ぎ、メンバーのくらしを守り地域の復興に役割を發揮するために、役職員一人ひとりが社会・事業・環境活動を推進してまいります。



みやぎ生活協同組合 理事長

齋藤 真子



みやぎ生協 とは…

▶ 生活協同組合とは

生活協同組合は、メンバー（組合員）の共通の願いやニーズを満たすためのメンバーの助け合い（相互扶助）の組織です。1844年、イギリスの労働者が自分たちの暮らしを守るために作った「ロッヂデール公正先駆者組合」が協同組合の始まり。現在、日本では6,000万人を超える方が生協の組合員です。

▶ 民主的な運営

メンバーの中から選出された総代による「総代会」で、毎年の方針などが決定されます。日常的には総代会で選出された理事（会）や、その負託を受けた常勤理事会が、総代会の決定に基づき事業執行の責任を持ちます。また、監事が理事（会）の業務執行を監査するなど、生協の民主的な運営を確かなものにするために多様な仕組みを設けています。



第32回総代会の様子

▶ 1982年に創立

みやぎ生協は、1982年に宮城県学校生協と宮城県民生協の2つの生協が合併して誕生しました。宮城県学校生協は、戦後間もない1947年から学校の先生方が中心となって設立した「宮城県学校用品購買組合」としてスタートし、1952年に法人格を取得し正式に生活協同組合となりました。合併時にはメンバー数62,449人、供給高約120億円となり、全国の学校生協では最も規模の大きい生協の一つでした。

宮城県民生協は大学生協で生協活動を行っていた方々が中心となって、1970年に設立されました。合併時にはメンバー数55,284人、供給高は約150億円でした。当時は大型生協同士の合併ということで全国的にも注目されました。



みやぎ生協誕生の様子

コープ東北 とは…

東北6県の 生協との連帯 コープ東北サンネット事業連合

▶ 事業活動と取り組み

コープ東北は、東北6県の10生協が商品仕入れを統一化、共同で行うことにより、厳しい競争環境の中でも、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在、店舗事業、共同購入事業、食品の安全、物流・システムの分野で統一・共同が進んでいます。みやぎ生協はコープ東北の中核的役割を果たしています。



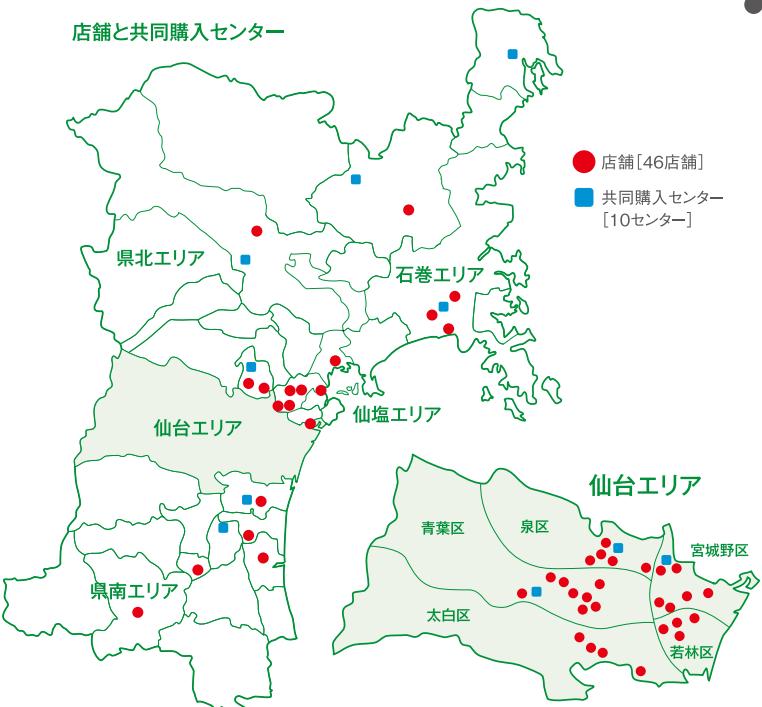
コープ東北 富谷共同購入物流センター

▶ 2013年度決算概要

2013年度は、引き続き復興支援の活動をすすめながら、同時に経営体质を強めることを掲げ、供給高は全体で1,022億円となり、前年を2億3千万円、予算を10億円上回りました。最終的な当期剰余金は4億2千万円でこちらも予算を達成し、昨年に引き続き出資配当と一定の内部留保が可能になりました。

▶ 加入率は全国一

みやぎ生協に加入しているメンバー数は67万7千人で、宮城県内世帯数の71.2%。全国で最も高い加入率を維持しています。また、県内に46店舗、共同購入配送センター10ヶ所を展開。その他、くらしに便利なさまざまな事業を行っています。



供給高(売上高)	1,022 億02 百万円
前年比100.2% / 店舗707億円、共同購入294億円、サービス20億円	
出資金(資本金)	237 億78 百万円
職員数	6,590 人

レギュラー職員860人
パートタイマー、アルバイター、嘱託・エリア職員5,730人
※関連団体への出向者含む

メンバー(組合員)数
677,106 人
はん数
43,000 はん
はんメンバー数
136,427 人
(2014年3月20日現在)

主な事業

生鮮食品、食品、日用雑貨、衣料品などの供給事業
サービス事業、受託・共済事業
生活相談・家計再生支援貸付事業

店舗46店舗 共同購入10センター

サービス・保障事業

サービスセンター・ガスセンター・住まいのセンター・
ブリエ案内センター・共済センター

生産部

ミートセンター・フィッシュセンター・豆腐揚げ工場

子会社

株式会社宮城県学校用品協会
株式会社コープトラベル東北
株式会社コープ総合サービス
株式会社コープエステート
株式会社スクラムファイブ

主な加盟団体

日本生活協同組合連合会
宮城県生活協同組合連合会
生活協同組合連合会
コープ東北サンネット事業連合

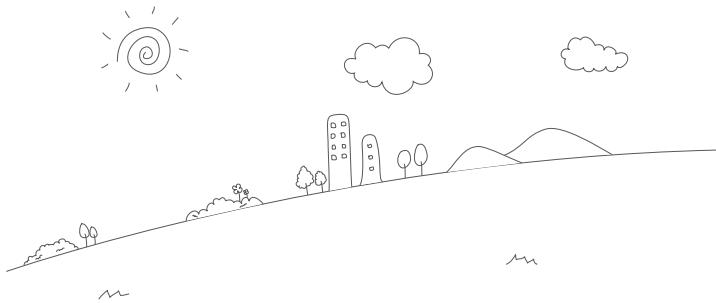
▶ 設立から今まで

1990年6月、いわて生協・生協共立社・みやぎ生協が、今後の事業連携のあり方について話し合いを開始し、1995年2月、コープ東北(コープ東北サンネット事業連合)を設立しました。その後、複数の生協が加盟し、会員数は10生協に広がりました。東北六県の生協が連帯することにより、各会員生協の収益改善に大きく貢献しています。

2013年度の加盟会員生協合計供給高は2,326億円、合計組合員数は1,652,634人となっています。

また、コープ東北が会員生協に供給した金額は937億円(前年比107%)になりました。





〈東日本 築こう未来 地域での役割の



蛇田店でのオープンカフェでは、軽体操が好評です

被災された方々を 支えて——。 ボランティアセンター

2011年5月より、被災された方々の暮らしを応援するため、県内4ヶ所（県北、石巻、仙南、仙塩）のボランティアセンターを拠点に、医療機関、社協、仮設住宅で見守り活動を担っている団体、民生委員、NPO、お取引先様企業など他団体と連携しながら、被災者支援のボランティア活動に取り組んでいます。

◎ふれあい喫茶

仮設住宅集会所や店舗・メンバー集会室など県内57ヶ所（2014年3月現在）で、月に各1～4回程度、一緒にお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ活動に取り組みました。参加される方々のリクエストに応え、小物づくりや、歌、軽体操、簡単な調理、医療機関と連携した健康チェックや、行政書士会と連携した法律相談会なども行いました。

◎募金活動・手作り商品販売の取り組みなど

毎月定期的に、または、おまつりなどの機会に、ふれあい喫茶でつながった仮設住宅などの被災された方々や福祉共同作業施設の方々が手作りした商品販売や、募金活動などの取り組みを行いました。

被災された方々の声をうかがいました

1～2月にかけ、被災された方々がくらしの再生・再建のためにどんなことに困っているのか、直接声を聞く被災者懇談会を県内5会場で開催したほか、ふれあい喫茶で声を聞き取る活動を行いました。寄せられた声は、広く多くの方へ知らせていきます。



被災者懇談会の様子

◎子育てひろば

震災により遊び場が少なくなった子どもたちのために、遊び場を提供する活動に取り組みました。ふれあい喫茶との同時開催により、世代を超えた交流の場にもなっています。



亘理店での子育てひろば&ふれあい喫茶の様子

◆復興支援に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/support/shien/>

大震災〉 希望の明日へ 発揮を目指して

◎サポーターの学習会と心のケアに取り組みました

【体験会や学習会を開催しました】

6月、「ふれあい喫茶体験会」を開催し20人が参加しました。また10月には、ふれあい喫茶で活動する際の、お話の聴き方を再確認する学習会を開催し、44人が参加しました。また、県北ボランティアセンターでは気仙沼市議会議員を招いて復旧復興出前講座を開催し、被災された方々と一緒に防災集団移転や災害公営住宅などについてお話を伺いました。



サポーター交流会の様子

【活動に参加するサポーターの心のケアに取り組みました】

12~3月にかけ、各ボランティアセンターで活動しているサポーターの交流会を、計5回開催し228人が参加しました。心の栄養についてのお話を聞くことで自身の状態に気づき心のケアにつながったほか、活動地域が違うサポーターどうしの交流ができました。

◎心の安らぎと元気を——文化企画

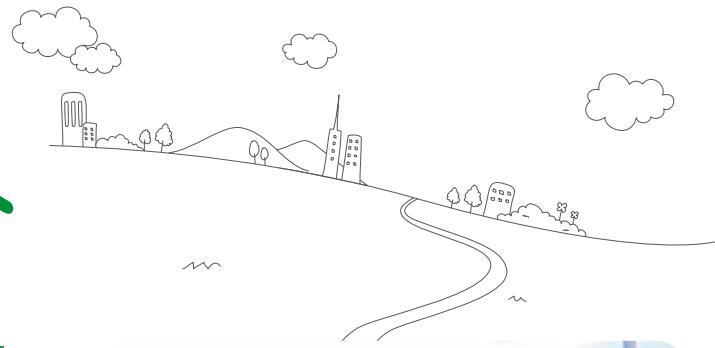
心の安らぎ、そして元気を得られる文化企画を今年も行いました。

恒例となった「震災復興コンサート」は、仙台出身の森公美子さんのコンサートを開催。これまで同様、被災地からの無料送迎バスを運行し多くの方に参加を呼びかけ、「元気をたくさんもらった」と大好評でした。

「みんなで一緒に大笑いしたい」という声から始まった落語公演は今年で3年目。県内8ヶ所で開催しました。公演終了後は出演者を交えてのお茶会も楽しんでいただきました。



「震災復興コンサート」森公美子さん



被災地訪問の様子

◎被災地訪問企画を実施しました

被災地域の変化や復旧状況を自身の目で確かめ、今後の支援や防災について考える被災地訪問企画を15回実施し550人が参加しました。参加者は、こ～ぶのつどいなどで現地を見た報告を自身の言葉で伝え、支援継続を呼びかけました。

◎フリーリアバスツアー

被災地応援企画「コープ化粧品フリーリア産地バラ園バスツアー」を仮設住宅にお住まいの方や自宅被災の方、サポーターなどのリフレッシュの機会として計4回開催し125人が参加しました。「久しぶりに命の洗濯ができました」と喜ばれました。



バラ園の前の記念撮影

◎手作り商品カタログの作成

生きがいづくりや生活再建のため手作り品の製作に取り組む方々などの商品を紹介し、購入を呼びかける「手作り商品カタログ」を2回発行しました。1月に発行した「新“復興応援”手作り商品カタログVol.1」では、NPO法人応援のしっぽと協力し、複数団体の商品をまとめて注文・納品する仕組みに変更し、28団体64品目を掲載しました。



新“復興応援”
手作り商品カタログVol.1

お買い物に関する様々な支援を店舗や 共同購入で行いました

移動店舗 セイキョウ便

移動店舗「セイキョウ便」は、被災地支援の一環として東日本大震災で近隣小売店の閉店、また近隣に小売店がない仮設住宅への入居等で買物に困っている方への商品供給を目的として2011年8月5日より1号車をスタートさせました。

営業地域は、津波被害が大きい石巻市と東松島市の仮設住宅・津波で閉店した旧アイトピア店地区・小売店が閉店している地区としました。品揃えは、生鮮品から雑貨品の生活必需品を中心に約600種類を品揃えしています。2012年3月21日からは、新たに2号車を配置し、気仙沼市・南三陸町で営業を開始しました。壊滅的被害のあった気仙沼市と南三陸町の津波被災者の買物支援要望は高く、それに応えることが復興支援として重要と考えています。1・2号車とも営業地域では「セイキョウ便の歌」を流して週5日営業しています。



仮設住宅を巡回する移動店舗「セイキョウ便」

復興くらし応援

◎「東北元気価格」

東北の4生協（いわて生協、生協共立社、みやぎ生協、コープふくしま）のメンバー（組合員）のくらしを継続的にサポートするために、2013年4月より各店舗でスタートしました。加工肉、ディリー、加工食品、生活関連の約2,400品目を通常価格より10～30%値下げしています。商品は2ヶ月に1度見直しを行い、季節の中で利用頻度の高い商品を選定しています。

買い物代行サービス こ～ぶふれあい便

週2回店舗で扱っている商品を自宅までお届けする買い物代行サービスです。震災前は高齢者や身体の不自由な方などを対象にした福祉サービスとしてすすめきましたが、震災後には被災地域を中心にお買物の不便を感じている方への支援策として湾岸地域も配達エリアとして拡大してきました。子育て・妊婦の方・家族の介護など買い物代行のニーズは多様化しており「こ～ぶふれあい便」の良さ・便利さをお知らせして利用者拡大の取り組みをすすめています。更に「安否確認」業務も県内各市町村と連携し「高齢者見守り活動」として推進しています。

「ふれあい便」サービス実施店舗

西多賀店、黒松店、桜ヶ丘店、富沢店、幸町店、国見ヶ丘店、六丁の目店、柳生店、明石台店、亘理店、塩釜杉の入店、愛子店、名取西店、八木山店、蛇田店



「私たちがお届けします」こ～ぶふれあい便スタッフ



復興支援サービス

◎被災した方の個人宅配手数料を100円に

東日本大震災で被災した方々を対象に、個人宅配手数料を3年間100円に割り引く『被災支援サービス』から、期限を設げず手数料100円とする『復興支援サービス』にリニューアルしました。現在1万1,578人のメンバーにご利用いただいており、多くの方が仮設住宅や民間借り上げ住宅での避難生活を強いられている中、このサービスの開始を喜んでいただけています。

「がんばろうふくしま！農産品応援ボックス」

福島県の生産者を応援するため、福島県産の農産物を詰め合わせた『がんばろうふくしま！農産品応援ボックス』の企画を継続し、2013年度は2万7,034点のご利用をいただきました。メンバーさんからは『福島の食物は検査をしているからかえって日本一安全だと思います。キャベツが1個100円では安すぎるのでは？』『安心して楽しみながらいただきました。食べる事で応援したいと思いました。』『風評に負けないで頑張ってください。また来年も注文します。この一年間おいしくいただきました。ありがとうございます。』などのお声が寄せられました。共同購入では2014年度も引き続き応援ボックスをご案内します。



農産品応援ボックス



「がんばろうふくしま！農産品応援ボックス」生産者のみなさん

共同購入ステーション

◎普段の買物を便利に

1週間に最大5回商品が受け取ることができる「共同購入ステーション」は現在、石巻生協文化会館アイティア、共同購入石巻センター、蛇田店、石巻渡波店、東松島市新東名集会所、共同購入気仙沼センターの6箇所で374人のメンバーにご利用いただいています。ステーションご利用のメンバーは、職員との会話やご近所の方とのふれあいを楽しみに足を運んでくださっています。



ステーションの様子

イベント車

◎共同購入をもっと知ってもらうために

沿岸被災地での共同購入のお役立ち提案を行うため、共同購入イベントカーとジャイロキャノピー（三輪バイク）をフル活用しました。生協店舗でおこなわれたイベントなどにも参加し、実際に話を聞かれた方は1万9千人を超え、応急仮設住宅での共同購入登録世帯数も4,049件になりました。



生協店舗で実施した共同購入イベント

復興割引チケット

サービスセンターでは、提携先様57社と連携し「復興割引チケット」を応急仮設住宅約3,399世帯に無料配布しました。

「復興割引チケット」は、被災者の暮らしの復興に繋がる割引特典7種類を20枚綴りにしたもので、最大12万5千円分の特典を生活支援としてお役立ていただくものです。暮らしを便利にする「自転車・バイク」、転居前後の生活支援を目的とした「引越し」、「家具購入」、「レンタカー」、福祉・介護・自営・生きがいづくりを応援する「資格検定」などが主な内容で、2016年12月31日まで利用できます。



育英募金と緑の基金

車検事業では、一台につき100円を「東日本大震災みやぎこども育英募金」と「緑の基金」それぞれに寄付を行いました。また、リサイクル品を使用することでCO₂削減にも取り組み、2013年4月から翌年1月までで2,258.6kgのCO₂削減に貢献しました。



津波記憶石プロジェクト

サービス事業部では、東日本大震災を後世に伝えるため、プリカ内センターの提携先「一般社団法人全国優良石材店の会」が推進する「津波記憶石プロジェクト」に賛同し、石材店とデザイナーの協力を得て制作する石のアートを宮城県女川町、南三陸町等に建立するため、事業収益の一部を建立資金として協賛しています。また、メンバー(組合員)向けに四つ葉のクローバーの種付き募金(500円)とお取引様向けの募金の呼びかけを行っています。

被災地の子どもたちを笑顔に

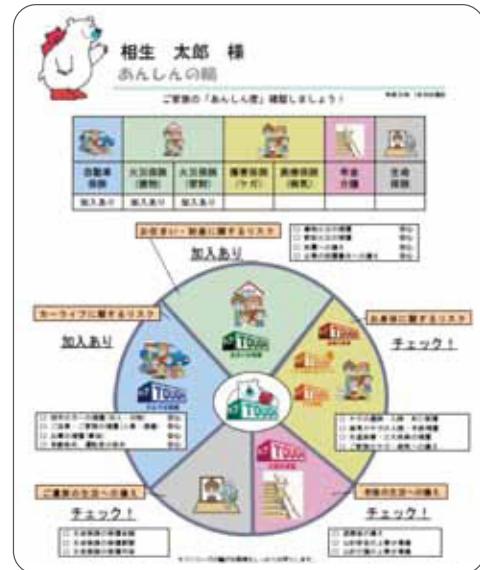
共済センターでは、被災地に暮らすメンバーとその家族、幼稚園や小学校の記念日に、CO・OP共済のキャラクター「コーすけ」とお伺いして笑顔になってもらう企画を実施しています。大人も子どもも、コーすけと触れ合うことでみんな笑顔になってもらうとともに、被災地の今を全国の生協の仲間に伝えることを目的として実施しています。今後も、メンバーの要望に応えながら、メンバーに笑顔をお届けていきます。



仙台空港にて陸前高田の子ども達と一緒に

保険がわかる相談会

来店したメンバーや、各地域のメンバーに対して、地震保険や生命保険の相談会を開催しました。現在加入しているメンバーの保障の見直しを行ない、メンバーが必要とする保障の全体像がわかる資料を配布しながら、保険について考えるきっかけ作りの取り組みを行いました。地震保険の契約数は、震災前と比較して1.5倍(約4,000件)となりました。



学校部・学校用品協会としての支援活動

◎みやぎの子どもたちを元気に！

学校部・学校用品協会では、2013年度も子どもたちの「心のケア」となる活動を行ってきました。学校へ出向いての支援では、「リコーダーアンサンブルコンサート」を県内小学校11校で開催しました。



仙台市の小学校では、復興へのメッセージを書いた凧作り教室を開催しました。



提携住宅メーカー（ミサワホーム）の協力で南極観測隊スタッフによる「南極クラス」を県内の学校4校で開催しました。“未知の世界”である南極での活動を伝えることで、未来を背負う子どもたちに夢と希望を届けました。



◎被災校へのクレヨン・図書館図書の寄贈

県南の幼稚園・保育所に取引先のぺんてるの協力でクレヨン500セットを寄贈しました。

また図書関連の取引先や他県学校用品会社より支援を受けて学校図書館図書へ9校（78万）の寄贈を行いました。



クレヨン贈呈式

◎子育て支援講演会・夏祭りイベントの実施

こ～ぶ家庭教育センターでは、10月24日（東松島）、25日（仙台）で、辰巳渚先生（新学社ポピー共催）による幼児・小学生を持つ保護者に子育てに役立つ教育講演会を開催し、東松島会場80人・仙台会場200人の参加がありました。

そのほか夏休み期間、被災地区での夏祭りイベント児童館まつりなど11箇所500人の参加で行いました。



児童館まつりの様子

アクアクララ水の提供

震災被害にあった地域へウォーターサーバーを設置しアクアクララ水の無償支援を行ってきましたが、復旧が進んだことで無料支援の施設が減少してきました。

現在、県内20施設へ年間で2,000本のアクアクララ水の無償支援を引き続き行いました。主な支援施設は、牡鹿地区的保育所、宮城県漁業協同組合志津川支所、名取市や岩沼市の仮設住宅集会所などへ支援を継続しています。



アクアクララ水をお届けした牡鹿保育所の園児たち

地域産業・生産者への復興支援

食のみやぎ復興ネットワークでは、地域産業を支援するため商品開発・イベントなどに取り組みました。



食のみやぎ復興ネットワークとは？

東日本大震災により、多大な被害を受けた宮城県内の農業・漁業関係者や食品関連産業者が、互いに励まし合いながら地域復興を目指すことを目的として、2011年7月に結成されました。活動の輪は大きく広がり、参加団体は234団体（2014年3月20日現在）となりました。

「日本農業賞」奨励賞を受賞しました

地域の食材などの地域資源活用を目指して一次産業の生産者と加工業者、流通業者が協力した商品開発を継続し、9つのプロジェクト活動に取り組みました。宮城県産品、県産原料を使用した加工品、県内工場加工品の開発や普及は20品目となり、これまでに取り組んだプロジェクト総数は57、開発や普及に取り組んだ商品は85品目となりました。

これらの活動が認められ、2014年2月、第43回日本農業賞（主催：NHK、全国農業協同組合中央会）「食の架け橋部門」奨励賞を受賞しました。農業者と消費者を結ぶ優れた活動や、未来の豊かな生き方・地域づくりへのヒントとなる食や農の活動を行っている団体や個人を表彰するもので、「震災前の状態を復活させるだけでなく新たに特産品を生み出し、地域の魅力を掘り起こそうとしている点」が評価されました。



日本農業賞授賞式

◎つくる 食べる ずっとつながるキャンペーン

宮城県産原料使用商品、県内工場加工品の商品212品目をお勧めし、供給数量は532万個、供給高9.8億円を超え、利用者は34万人（県内世帯の36%）を超えるなど、多くのメンバーさんに支えられた商品に育ちました。15回のプレスリリースを行い、マスコミに取り上げられた回数はのべ35回となりました。

わたりそばプロジェクトに取り組みました

津波被害を受けた亘理郡の農地でそばの栽培に取り組む生産者をみんなで応援するプロジェクトです。



2013年10月4日 そばの花見会（亘理町荒浜）

収穫された蕎麦粉を使って「復興亘理蕎麦（製造：だい久製麺）」、「復興そば万頭（大沼製菓）」を商品化しました。



復興亘理そば 2人前498円

震災後そばの栽培に取り組む亘理郡の生産者を多くの団体で支えました。また、被災地の農業者、加工業者、協同組合、消費者が一体となって商品づくりに取り組み、亘理産そばが地域特産品として知られるまでになりました。



2013年11月26日 亘理そばおひろめ試食会（みやぎ生協亘理店）

プロジェクト活動から生まれた商品

◎仙台はくさい

大正から戦前にかけて宮城県の白菜生産量は日本一。仙台はくさいは柔らかく甘みがあるおいしい白菜です。震災後、JA全農みやぎ、明成高校、宮城農業高校などと仙台はくさいプロジェクトを立ち上げ、塩害に強い白菜の栽培を通じて県内農業再生に取り組んでいます。



2013年11月17日 仙台白菜収穫祭(岩沼市寺島)

◎いちじく

仙南地方でのいちじく栽培を応援するプロジェクトです。3年目の今年は地元の加工業者といちじくジャム、いちじくの甘露煮、乾燥いちじくを商品化しました。



◎なたね

岩沼で菜種の栽培に取り組む生産者と地域を応援するプロジェクトです。活動3年目の今年は「なたねオイルのしょうがドレッシング」を商品化しました。



◎あおばの恋うどん

宮城県産小麦の利用拡大に取り組む「県産小麦プロジェクト」で開発しました。宮城県産「あおばの恋」小麦を使用し「つるみ感」のあるおいしいうどんです。一般的な「シラネコムギ」に比べて、麺に加工した際に粘りと弾力性・なめらかさが強く、麺の色や外観も優れています。開発に当たっては、試作を繰り返し、麺の粘りと弾力性が強く、なめらかで独特の食感と風味を持つ麺に仕上げました。



◎秘伝豆のもろみみそ

東北地方の在来種「秘伝豆」の生産者を応援し、新しい宮城の特產品づくりに取り組むプロジェクトです。これまでの枝豆や乾燥豆としての出荷に加えて、2013年度は割れなどの規格外品を利用した「もろみみそ」の商品化を地元の醸造メーカーと進めました。マスコミにも取り上げられ、14,000個が利用されました。



みやぎを元気にするふるまい企画

被災地みやぎを元気に励ますことを目的に、みやぎ生協店舗を使用した「みやぎを元気にするふるまい企画」に取り組みました。UFOキャッチャーを使ったお菓子のふるまい、キッチンカーを使ったメニューの提供やおいしいコーヒーの淹れた教室、生活用品のサンプルセット配布、着ぐるみを使ったお菓子の配布と子どもたちとの撮影会、めぐみ野品を使ったメニューの提供など、参加団体の思いを込めた企画が開催されました。13年度ではのべ220団体が177の企画を実施しました。このうち、県民防災の日周辺では67団体で60企画、防災の日周辺では55団体で39企画、震災から3年を迎える時期には78団体で58企画が開催されました。会場ではめぐみ野生産者支援募金にも取り組みました。



2013年9月1日 防災の日ふるまい企画

誰もが安心して 暮らせる社会をめざして

相談からご融資までをサポート 「くらしと家計の相談室」を開設

生協として新たな役割発揮をすすめるために、2013年9月17日から、仙台駅東口に「くらしと家計の相談室」を開設し、「生活相談・家計再生支援貸付事業」をスタートしました。

この事業は東日本大震災以前からの暮らしは厳しさに加え、大震災という新たな困難によって一層厳しさを増したメンバー・県民の暮らしをサポートするものです。

◎くらしと家計、お金の困りごとの改善・解決

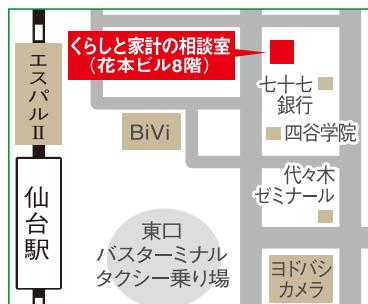
この事業はお金を貸すことが目的ではありません。相談員が相談者の困りごとを丁寧に聴き取り、相談者に寄り添い、くらしの再生・改善・解決策と一緒に考えていきます。あくまで相談者自身が主体的に自らの生活を改善・解決していくことをサポートするものです。

お金に関する相談の場合、相談者の家計収支等を確認し、必要な見直しのアドバイスを行います。借入が必要な場合には、公的融資制度をはじめ、相談者に有利な方法を検討し、そのような解決が困難な人に対してみやぎ生協の融資を検討し可能な人へ実施します。

さまざまな理由で借入が困難な人には、相談から融資までをワンストップで受けることができるセーフティーネットになっています。

年度途中からの事業開始でしたが、半年間で延べ872件の相談をお受けし、くらしの再生をサポートしました。

このうち186人に約1億8,400万円のご融資を行い、家計やお金に困窮している方への支援をすすめることができました。



みやぎ生協くらしと家計の相談室
相談からご融資までをサポート!

☎022-292-5015

仙台市宮城野区榴岡2-3-15 花本ビル8階 受付時間：10:00～17:00(日・祝日を除く)



【相談・貸付の状況】

電話相談受付数	582件
面談相談者数	442人
延べ面談相談件数	872件
貸付契約件数	186件
貸付金額	1億8367万円

相談事例 Case:1

ご夫婦と小中学生のお子さん3人の5人家族。これまでも生活費に余裕はなかったが、ご主人が怪我により今の仕事が困難になり退職。失業給付は出るが、支給日は年明けになる。それまでの生活費に加え長男の高校入学と次男の中学校入学への準備金が必要とのことで相談。

提案した家計収支表をもとに、ご主人が再就職するまで予算にそった生活を送ることを確認。キャッシングローンでも返済に無理がないことから、当面必要な資金として30万円を48回払い融資を行い支援。奥様が「夫の前では言えないけれど、不安だったのでほっとしました」と涙ぐまれた様子に、この事業を行ってよかったと確信しました。

相談事例 Case:2

震災によって事業収入が減少し不安定に。ご夫婦合わせて約280万円の債務の支払いがあり苦しい。家賃も滞納してしまい月末までに滞納分を支払わないと退去しなくてはならない。

ご主人は事業をあきらめ、今月から正社員として就職が決まったので、今後は奥様の収入と合わせて夫婦で安定した収入が見込めるが、これまでの債務と滞納家賃を整理し、生活の再スタートをしたいと相談。

債務の状況とご主人の就職後の家計収支などを確認。ご夫婦の収入で今後は安定した生活が見通せることから、債務を極力整理し、住まいを失わないようにすることを含めた今後の生活を支援することに。145万円、60回払いでの融資を実施し支援しました。

大切な食べ物を通して みんなの笑顔が広がりました



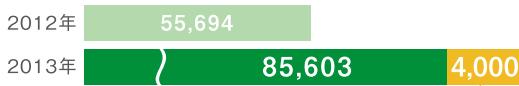
コープフードバンクがめざすもの

お取引様の食品企業等から余剰食品の無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織等へ無償で提供することを通して、食品の無駄をなくすとともに、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりをすすめることを目的に活動をすすめています。



コープフードバンクの輪が広がっています

●企業などからの寄贈量(kg)



●施設・団体への提供量(kg)



●設立当初(2012年4月)からの累計



●延べ配布回数(回)



福島県にも広がりました

コープフードバンクでは、被災地支援はもちろん児童養護施設・路上生活者支援団体・障がい者支援団体等多くの方々に笑顔をお届けしています。

また、コープふくしまと一緒に福島県内の施設へも提供するようになりました。多くの方々に支えられコープフードバンクの輪は広がっています。



飯館村で被災され、現在相馬市内で活動されている子育てサロンのみなさん

食品提供先からの声

みやぎ生協 コープフードバンクのことを資料を見ながら話し合う機会をもちました。私も含め、全員がこのような活動をされている方々がおいでであることを初めて知りました。本当にごくろう様です。

おかげ様で、クリスマス会が一層盛り上がり楽しいひとときをすごすことができました。ありがとうございました。

子育てサロン代表 長正サツキ



ご支援・ご協定ありがとうございます。
今後もサポーター企業、提供・提携企業を募集しています。

2014年4月30日現在、法人サポーター企業様81社 (順不同)

●マルニ食品株式会社	●株式会社リケン計画事務所	●株式会社ボイシ仙台支社	●株式会社ヒューテックオノリ	●株式会社フクシ
●東北本分	●株式会社ディリーフーズ	●イカリ消費仙台株式会社	●株式会社仙台放送	●株式会社グラシアジャパン
●大塚食品株式会社	●株式会社だいきず?	●パナソニックES産機システム㈱東北支店	●株式会社ダンク	●ネスレ日本株式会社北日本支社
●日本生活協同組合連合会	●佐川印刷株式会社	●三協青果株式会社	●株式会社シーテック仙都	●日本労働省労働組合連合会シーテ事業団東北事業本部
●加藤産業株式会社仙台支店	●あいおいニッセイ同和損害保険株式会社東北本部	●株式会社全通	●東北共済建設株式会社	●株式会社リマックス東北
●株式会社サークル	●凸版印刷株式会社東日本事業本部	●みやぎ県南医療生活協同組合	●株式会社ホクトコーポレーション	●相双地方労働組合連合会
●株式会社サイコー	●株式会社仙台水産	●株式会社日串運ライフサービス	●株式会社コム	●株式会社東北経済
●株式会社ブランディング・オフィス社	●株式会社イネット	●松印 松浦青果株式会社	●株式会社みなどモーター	●株式会社ビーポ
●ジェイエイ化成ひま茶業株式会社	●株式会社仙水	●川口印刷工業株式会社仙台支店	●六興電気株式会社東北支店	●東海上日動火災保険株式会社
●株式会社ハーベルシステム	●株式会社丸光配達	●スモリ工業株式会社	●SBSフレック株式会社	●砂金石油ガスクスタンド会社(イサゴ)
●株式会社日本アクセス東北支社	●株式会社第一エージェンシー	●株式会社ボーバセターサクラ	●エムカイワ株式会社	●明治安田生命保険相互会社東北公法人部人當兼部
●伊藤園南東北地区量販店課	●株式会社エスティーファイブ	●空調技工株式会社	●株式会社物流サービス	●株式会社アバント
●三菱食品株式会社東北支社	●江崎グリコ株式会社	●株式会社大沼製菓	●SBSフレック株式会社	●アクアクラ株式会社
●株式会社サン・ベンディング東北	●株式会社神奈川クリーニング	●公益財團 宮城厚生協会		

多くの被災地のみなさんとつながり・前進

被災地招待事業等に協賛し、笑顔と笑顔の輪をひろげました。

被災者招待企画

◎東北楽天「がんばろう東北 被災地招待事業」

みやぎ生協、いわて生協、コープふくしまの3生協で、2013年度楽天の「がんばろう東北」の支援活動「被災地招待事業」に協賛しました。

宮城、岩手、福島の被災者の方々を年間8試合、楽天戦にご招待するというものです。

送迎から食事・飲料の提供、観戦グッズやユニフォームプレゼント、試合後選手とのふれあいや記念撮影が事業内容となります。

2013年度はのべ956人の子どもたちを招待しました。



◎みやぎ生協プレゼンツ「89ers冠試合」

11月2日(土)被災者支援の一環として「みやぎ生協プレゼンツ仙台89ers対大分ヒートデビルズ戦」を仙台市体育館にて開催しました。

当日は、被災地の子どもたち(女川小中学校、女川・稻井バスケットチームなど)を約80人招待、オリジナルの記念Tシャツプレゼントや試合後の選手とのふれあい、記念撮影などを行い、思い出に残る一日となりました。



◎県民のみなさんへ復興支援活動を広告

東日本大震災から3年目の3月11日と12日に、みやぎ生協の復興支援活動を紹介する新聞広告を掲載しました。

復興の道は長く険しいですが、被災地に寄り添い、被災地産業を応援する取り組みを継続していきます。



◎「未知ノ国守ダッチャー」防犯ショー

津波被害を受けた地域を中心に9箇所の幼稚園で防犯ショーを実施しました。のべ2,028人の園児が参加し、大人気のご当地ヒーローと触れ合える機会にとても大喜びでした。



◎行政、町内会や大学などと共に

震災を風化させない、被災地に元気など、復興支援企画として下記に協賛、復興の一助となりました。

「伊達な祭り」、「やりましょう盆踊り」、「今できることプロジェクト」、「風に負けない みやぎ・東北プロジェクト」、「第6回日本高校ダンス部選手権」、「大学祭(東北大大学、宮城大学、東北学院大学)」など。

3.11 東日本大震災を忘れない

東日本大震災を風化させないこと、大規模災害時に社会のインフラとしての役割を果たすことは、みやぎ生協の大きな責任です。

東日本大震災 学習・資料室

東日本大震災を忘れず、みやぎ生協が震災発生後に取組んだことや他生協からの支援状況などを理解するとともに、後世に伝え続けるための施設として、2013年3月5日に文化会館ウィズ内に「東日本大震災学習・資料室」を開設しました。みやぎ生協に新たに入協した職員には、必ずこの学習・資料室で学ぶことを義務付けています。また、メンバーや他生協の方など、開設からの1年間で、来場者は1,300人を超ました。

学習・資料室には約40坪のスペースの中に、震災発生以降の取り組みを写真や音声ガイドで紹介するとともに、被災された方の手作り品や、食の宮城復興ネットワークで開発した商品など約100点が展示されています。また、この間の活動をまとめた動画を見ることが出来るシアタールームや実際の津波の高さを表示した柱も併設しています。



実際の津波の高さを表示した柱



東日本大震災 学習・資料室内の様子

被災地視察ツアー

「震災を忘れない」ためには、被災地の現状を直接見て、感じていただくことが重要です。みやぎ生協では被災地を視察する企画を設け、全国の生協などに呼びかけています。2013年度は20以上の生協、県連、事業連合などに被災地を見ていただきました。

「被災地は今」の情報発信

震災からの復興をめざす被災者・被災地にとって、風化は大きな問題です。被災地ではまだまだ多くの困難な問題を抱えているにも関わらず、全国的な報道では徐々にこれらの問題が取り上げられることが少なくなっています。

被災地の復興の為には、政治の問題のみならず、国民の皆さんのが被災地の問題に常に关心をお持ちいただき・忘れないで頂くことが、大事なことだと思います。

そのためにみやぎ生協では2013年9月より、被災地の実相を伝える情報を月1回、全国約60生協、事業連合、県連に提供し、組合員向け機関紙や部内報、ホームページなどに掲載をしていただいているです。

行政との連携

大規模な災害が発生した際に、行政からの物資の要請などに的確に対応するためには、各自治体との日常的な連携が不可欠です。2013年8月には宮城県の後援を得て、みやぎ生協と災害時の応急生活物資供給協定を締結している自治体との懇談会を開催し、大規模災害が発生した場合にみやぎ生協の対応や、各自治体からの要望等について意見交換をしました。21自治体26名の参加で、非常に有意義な懇談会となりました。



災害協定締結自治体との懇談会

自治体が行う図上訓練や救援物資輸送訓練等に定期的に参加し、「万が一」に備えた準備を行っています。訓練終了後は、自治体職員との振り返りも行い、これらの訓練がより有意義なものとなるようにしています。



食品の安全を 確保する仕組みを より確かなものへ

みやぎ生協 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協は、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共に、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバーの願いの実現を目指します。

そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

1. 取引先、生産者、メンバーとコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバーへの供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。
 - (1) 食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します。
 - (2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
 - (3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。
2. 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。
3. メンバーと産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広めます。
4. 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。
5. 食に関する学習・体験の活動にメンバーや他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。

この食品の安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

放射性物質問題への対応

◎放射性物質検査

2013年5月、商品検査センターに放射性物質測定機器（「ゲルマニウム半導体検出器」）を導入し、継続的・安定的に放射性物質の測定を行うことができる体制を整えました。

「めぐみ野」品（産直品）に加え、COOP商品やアクアクララ水、一般市場品の農畜水産物の検査を商品検査センターで定期的に行ってています。2013年度は2014年1月末までに442検体の検査を行い、いずれの結果も問題はありませんでした。検査結果は、店頭掲示や共同購入の納品書、ホームページで報告しています。

また、昨年に引き続き全国の生協や日本生協連と協力して、実際の家庭の食事に含まれる放射性物質の量に関する調査に取り組みました。2013年度は50世帯のメンバーに協力をいただきました。測定の結果、1件のみの検出（セシウム137が1.8Bq/kg）で、49世帯からは検出されませんでした。



ゲルマニウム半導体検出器

放射能 摂取量調査の手順



1. 各家庭で食事をもう一食余分に作り、一食分ずつフリークリングバッグに入れ冷凍庫に保管します。



2. 各家庭から2日分の食事とアンケート、献立調査票、食事の写真が届きます。



3. 食事をミキサーで粉碎し均一に混ぜて、そのうち2リットルを検査試料とします。



4. 細かくした検体を専用の容器にできるだけ隙間なく詰め、検体を詰めた容器を検出器にセットします。1検体の測定時間は約14時間です。

パソコン上で操作して、モニターに表示されたデータから、物質の種類と濃度を解析します。



「みやぎ生協 食品安全マネジメントシステム」の運用を継続し、改善を積み重ねています

◎食品安全マネジメントシステム

- ①各部署が「食品安全・安心に関する基本方針」に基いた目標と、それを実現するための教育・実施・検証の計画を立て、毎月進捗管理をして活動を進めています。
- ②内部監査や外部検査の結果などもふまえて、取組みの有効性を評価し、目標が達成できない場合には、その原因を明らかにして対策を補強していくことで改善を積み上げています。

◎2013年度の改善例

- ①店舗事業では商品ラベルの貼り間違いの削減に取り組み、アレルギーの誤表示を削減しました。
- ②コープフーズ東北は生産品のラベル表示間違いに取り組み、アレルギーの誤表示ゼロを達成しました。さらに、生産品への異物混入を防ぐ取組みを強化し、前年の約半分まで削減しました。
- ③(株)コープ総合サービス・水事業センター(アクアクララみやぎ生協)とコープフーズ東北は、内部監査を定期的に実施して工場の衛生レベルの改善を進めました。

重大商品事故管理システム

◎商品の安全対策室

重大商品事故の兆候を見逃さないため、メンバーのお申し出の対応や判断に誤りが無いか、事故の原因解明と再発防止策がしっかりと行われているかなど、最後までしっかりと監視を行っています。

2013年度も、重篤な人体被害などの重大商品事故に発展した案件はありませんでした。

◎商品事故に関する監視と改善

東北6県の生協と商品事故の情報を共有し、各生協の担当者が学習を重ねることで監視を強めています。

また、商品の安全対策室から定期的に情報発信を行うことで、メンバーさんに回答するまでかかる平均日数を適切に維持することが出来ました。農産品などでは、同一商品でお申し出の多い商品の事故情報を適宜商品担当者に発信することで、お申し出件数の改善にもつなげています。

品質管理・商品検査の取り組み(品質管理室・商品検査センター)

メンバーに安心して商品を利用していただくために、食中毒の原因となる微生物検査や「めぐみ野」野菜(産直野菜)の残留農薬の検査等を行い、結果を衛生改善や栽培指導に役立てています。

微生物検査は10,059検体、残留農薬検査は356検体おこないました。



商品検査センターでの検査の様子

1)微生物検査

累計	総検体数	共同購入配達商品	店舗調理加工商品	店舗一般メーカー商品(テナント含む)	COOP商品・コープフーズ東北生産品	取扱事前検査など
検体数	10,059	2,706	2,937	1,552	297	2,567

検査結果から、取り扱い停止の対応を行った商品はありませんでした。

2)残留農薬検査

累計	総検体数	めぐみ野菜	めぐみ野米	一般品
検体数	356	317	32	7

4月度めぐみ野「小松菜」、12月度めぐみ野「ちぢみほうれん草」で残留基準値を超える検出があり、メンバーへの告知および回収を呼びかけるとともに、行政への報告を行いました。

◎COOP商品の原材料の確認

みやぎ生協が指定した原材料で、検査で検証可能な19品目のCOOP商品について、外部検査機関で検査を実施しました。その結果、適切に使用されていることを確認しました。

項目	遺伝子組み換え	品種判別	産地判別
検査品目数	6	7	6

「手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したこと風化させないために、毎年2月度を「餃子事件を教訓とする月間」として、事件の内容と作り上げてきた食品の安全を確保するためのルールを全職員が学習しています。

◆食品安全に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/products/safety/>



みやぎ生協の産直ブランド 「産消直結 めぐみ野」

44年前にみやぎ生協の前身「宮城県民生協」の組合員と生産者の方々が始めた「顔とくらしの見える産直」の取り組み。さらに未来へ向けて新たな一步を踏み出すために、2011年から、「めぐみ野」として商品パッケージのイメージを全商品で統一し、演出物デザインも統一しました。東日本大震災で破壊された地域コミュニティの再生、そして生産者と消費者が手を取り合って一次産業の復興を目指すためにも「めぐみ野」の輪を広げていきます。

ふるさとの豊かな自然が授けてくれる恵み
生産者の方々のたゆまぬ努力によりもたらされる恵み
おいしくて安全な食卓に支えられた
健やかな毎日という恵み
そして、作る人と食べる人がお互いを思いやる心の恵み

◎「産消直結 めぐみ野」事業と運動の基本的な立場

- ①健全な日本型食生活の確立と食料の安全性を高めます。
- ②食料自給率の向上をめざし、日本と宮城県の農・水・畜産業とその加工業、及び生産者の暮らしを守る国民合意の運動を進めます。
- ③産消提携活動に積極的に取り組みながら、地域経済の活性化と文化の発展、自然環境の保全に寄与します。

この内容を1985年から「産消提携に関する基本協定書」としてみやぎ生協と各団体で締結し(現在37団体)、協定を結んだ団体が「宮城県産消提携推進協議会」を組織しています。そして、生協メンバーと協議会会員がお互いに交流し、学習の機会を広めています。



- ①だれ(生産者)がどこ(産地)で作ったかがわかること。
- ②どのように(栽培・飼育)作ったかがわかること。
- ③生産者とみやぎ生協のメンバーの交流があること。



数字で見る「めぐみ野」

- 「めぐみ野」商品の取り扱い……………41品目
- 2013年度供給高……………54億7千万円
- みやぎ生協と「産消提携に関する基本協定書」を
締結している団体(「宮城県産消提携推進協議会」)……37団体
- 「めぐみ野旬菜市場」設置店舗……………37店舗

◎「めぐみ野旬菜市場」

安全でおいしい野菜を食べたいというみやぎ生協のメンバーの願いと、その願いに応えたいという生産者の思いから生まれた「めぐみ野旬菜市場」。

現在、37店舗に設置しており、県内20の生産者グループが旬の野菜の中から自分たちの目で選んだ自信作を店舗に届けています。



今までも これからも

1970年
角田市農協と鶏卵・
鶏肉・豚肉の取扱い開始



みやぎ生協の前身、宮城県民生協と角田市農協(当時)が、1970年に「鶏卵」「豚肉」「鶏肉」の産直を始めました。当時、食の安全についてはあまり問題にされず、抗生素質や抗菌剤等の投与は当たり前でしたが、生協組合員の「安全でおいしい肉が食べたい」という願いに応えようと、生産者も努力を惜しませませんでした。しかし生産者の経営は厳しいものになっていました。そこで生協組合員は「生産者の生活が成り立つ価格」での供給を提案し、お互いに合意することになったのです。

お互いの立場、環境を学び、理解しあうこと。これが「顔とくらしの見える産直」です。この思いが今でも受け継がれています。

私たち生産者と共に安心・安全とおいしさにこだわりつづけます。



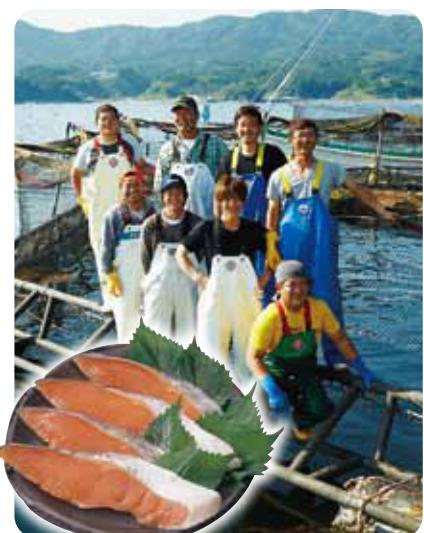
「めぐみ野」レタス

鮮度にこだわり、一生懸命作っています。ぜひ美味しい「めぐみ野」レタスをいっぱい食べてください。



「めぐみ野」トマト

甘くておいしい「めぐみ野」桃太郎トマト。真っ赤に熟してから収穫してお届けしています。



「めぐみ野」志津川湾産 養殖銀さけ

震災で大きな被害を受けましたが、これまで以上に美味しい「めぐみ野」銀さけをお届けしていますので、ぜひ、自慢の味をご賞味ください。

「めぐみ野」交流集会を開催

第32回「めぐみ野」交流集会を、12月4日(水)仙台国際センターで開催しました。メンバー・生産者・産消提携団体・お取引先様・生協職員など1,353人の参加がありました。今年は「めぐみ野米」25周年ということもあり、「めぐみ野米」にスポットを当てた企画構成としました。初めての試みとして地域芸能の「神楽」も披露され、参加者から好評をいただきました。また、亞KIRA(アキラ)さんによる「あったかご飯は『めぐみ野米』」の歌の披露もあり、会場全体がとても盛り上がりました。

「TPP」参加反対運動を幅広く

「TPPから食と暮らし・いのちを守るネットワーク宮城」と一緒に「TPP(環太平洋戦略的連携協定)」への参加反対運動を幅広く他団体と協力しながら進めました。地域でのTPP学習会を12回開催し、398人が参加しました。TPPの本質について学習を深め、私たちの反対意見をはがきで国会議員へお届けしました。初夏のつどいでもTPPについて学習し、参加者メンバーから「TPP参加反対カード」が2,160人分寄せられました。このカードは、10月3日内閣府に届け、TPP交渉からの即時脱退を求めました。

「めぐみ野」の商品



生産者のひとこと。

宮城県漁協 志津川支所カキ部会
多くの支援に感謝し、「日本一のかきをつく
ろう」を合言葉に復興に取り組んでいます。



「めぐみ野」志津川湾産生かき

南三陸リアス式海岸の波静かな志津川湾で育てられ
ています。真水による加工処理をしないことで、かきが
ふやけず、剥きたての美味しさを味わうことができます。



「めぐみ野」

あやこがね納豆

宮城県角田市で栽培された大粒系の豆「あ
やこがね」で作られた納豆です。みやぎ生協と
メンバーが共同で開発し、産地、生産者、製造
方法が明確で安心な納豆です。



「めぐみ野」いちご

農薬と化学肥料の使用は、宮城
県の一般的な栽培の半分以下に
減らしています。甘さと酸味が程よ
く調和した美味しさです。



「めぐみ野」三陸産湯通し塩蔵わかめ

岩手県大船渡近海で養殖された肉厚で歯ごたえが良いわかめです。
しっかりと脱水してからパック詰めしているので、余分な水分や塩分
は含まれません。



「めぐみ野」大沼牛

北海道の広大な農地で、自家栽培さ
れた牧草とデントコーンを与えて育て
た、甘みと柔らかな肉質の牛肉です。
衛生的な畜舎と良質な地下水をたっ
ぱり与え、健康的に育った牛です。



「めぐみ野」豚

赤豚種と白豚をかけ合わせ、やわら
かくセのない美味しさになってい
ます。



「めぐみ野」若鶏

飼料には全飼育期間を通して抗生
物質や合成抗菌剤を加えていませ
ん。めぐみ野の豚、鶏、採卵鶏には国
産の米を飼料に配合しています。

「めぐみ野米」が25周年を迎えました

「安全に食べられる県内産の美味しいお米を食べたい」というメンバーの声を実現するために、「作った人が分かる」お米を商品として供給しようと、法的な規制などの問題を解決し、産消直結のお米が供給できるようになったのは1989年でした。それから25年、現在「めぐみ野米」は年間取扱量(生産量)は約3,000トン、年間供給高は約12億円となっています。

誕生から25年の節目を迎え、「めぐみ野米」生産者は“めぐみ野米宣言”を発表しました。5つの宣言には生産者さんのめぐみ野米作りにかける思いがすべて凝縮されています。

「みやぎ産直米生産者協議会」「めぐみ野米」宣言

- ①私たちは「めぐみ野米」を通して、メンバーさんとの交流を大切にしています。
- ②私たちは、メンバーさんの食卓に“おいしい”「めぐみ野米」をお届けしています。
- ③私たちは、メンバーさんお食卓に“安心な”「めぐみ野米」をお届けしています。
- ④私たちは「めぐみ野米」作りを通して自然と環境の保全を目指しています。
- ⑤私たちは、産地の枠を超えて、協同して「めぐみ野米」作りをすすめています。



めぐみ野米生産者代表。(左)田尻産直委員会米部会 部会長千葉敏明さん (中)丸森産直ふるさと米部会 部会長大内喜一郎さん (右)角田市ふるさと安心米生産組合協議会 会長只野茂さん “食べる人を思いながら作っています”



稲の花咲く めぐみ野米 二十五年の歩み

25周年の節目の年を迎える
にあたり、記念誌「稲の花咲く」を出版しました。



顔とくらしの見える産直をさらに広げました



第1回「食と農林漁業の食育優良活動表彰」で農林水産大臣賞を受賞しました

農林水産省主催の第1回「食と農林漁業の食育優良活動表彰」の企業部門で、農林水産大臣賞を受賞しました。「めぐみ野」活動を通じた、メンバーと生産者の交流活動、震災からの復興支援や、5ADA Y食育体験などの取り組みが大きく評価されました。



◎「産消直結 めぐみ野」理解と「めぐみ野」品の普及

地産地消の日、いいコープの日、旬菜市場祭りなど「めぐみ野」品の普及活動に取り組み、「めぐみ野」品の利用拡大に貢献しました。

◎「めぐみ野」生産者への支援活動

「めぐみ野」生産者支援募金に取り組み、多くのメンバーから約434万円の募金が寄せられ、被災した団体に贈呈しました。また、東銀座印刷出版株式会社、生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合（コープCSネット）からお預かりした支援金750万円を、提携協会員や県内の被災団体にお届けしました。

志津川支所かき生産者支援のボランティア活動は、共同購入職員有志11回120人、大坂府生協連・京都生協・生協しまねを中心に行いました。

JAIいしのまき いちご作業支援は、2回29人が参加しました。



バケツ稻コンテスト

◎「めぐみ野」学習会・学習塾

「めぐみ野」学習塾を39回885人参加、（2012年17回）。「めぐみ野」ミニ交流会を10回301人が参加しました。生産者の苦労がわかり、生産者と直接話しができてよかったと好評でした。「めぐみ野」米バケツ稻コンテストを開催し17店舗で538人のメンバーが参加し、「めぐみ野米」を身近に感じてもらえる取り組みとなりました。



「産消直結 めぐみ野」牛乳タオル1本運動

牛乳タオル1本運動は、7,071本(12年度5850本)のタオルを「めぐみ野」牛乳生産者に贈呈し生産者の費用の軽減と応援に繋がりました。

「今までみやぎ生協さんやメンバーの皆さんからの毎回の心温まるタオル1本運動に有り難く、善意に組合員一同心から感謝申し上げる次第です。」

鳴子上原酪農組合 組合長 片倉 正人

「いつもタオルを集めていただき、誠に有難うございます。安全・安心のめぐみ野角田丸森産牛乳生産のために使わせていただきます。これからもよろしくお願ひ致します。」

角田丸森産直牛乳生産組合 組合長 渡辺 博



人と人がふれあう 機会をつくり 自主的でいきいきと したメンバー（組合員） 活動を進めています



メンバー（組合員）活動

◎参加者と一緒に楽しいひとときを

みやぎ生協のよさを知っていただき、地域でのふれあいや絆を深めあう場として初夏と秋に「こ～ぶのつどい」を宮城県内各地域で開催しました。歩いてでも参加できるよう店舗の集会室のみならず、地域や仮設住宅の集会所などでも実施しました。

参加したみなさんに楽しく学んでいただく“わいわい”の企画も、「めぐみ野」生産者やお取引先様、行政やNPO、地域の福祉施設などのご協力も得て充実した内容で企画することができました。

こ～ぶ委員会、こ～ぶのつどい、はん会

項目	2012年度	2013年度	
こ～ぶ 委員会の数	322	324	
委員会 委員人数(人)	2,921	2,885	
こ～ぶ の つどい 初夏のこ～ぶのつどい参加人数(人)	12,005	11,900	
	秋のこ～ぶのつどい参加人数(人)	11,990	11,566
はん会 紫陽花はん会開催数(回)	6,501	6,350	
	秋桜はん会開催数(回)	6,406	5,692

◎サークル活動・カルチャー活動

あつまる・つながることに価値観をおいたコミュニティの活動として「サークル活動」「カルチャー活動」を開いています。

「サークル」はくらしや趣味をとおしてわいわいする活動、「カルチャー」は生協に登録した講師のもとで趣味や文化活動をとおして楽しむ活動です。「サークル」「カルチャー」あわせて約5,500人のメンバーが集会室を会場に活動しています。



福祉まつりサークルカルチャー発表会

◎楽しくてためになるこ～ぶ委員会活動をすすめています

生協のさまざまな取り組みについて学習したり、興味や関心のあることを企画して楽しくてためになる、こ～ぶ委員会活動を年10回みんなで考えて進めています。2013年度は平和やくらし・震災からの復旧復興や「めぐみ野品」やコープ商品の特徴を知って良さを広めようと試食や学習をおこないました。また、こ～ぶ委員を増やすために常に開かれた活動をおこなうよう「オープン委員会」の開催をすすめました。

◆メンバー活動の詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/>



楽しい企画がいっぱいの「こ～ぶのつどい」

食の活動と子育て支援

◎食の安全と食育、食生活の向上

みやぎ生協では、メンバーの「安全安心な食生活を送りたい」という願いをもとに、よりよい食の環境づくりをすすめています。「食生活提案」では「“食”を大事に健康づくりをすすめています」として4つの基本テーマ「1. 楽しく、おいしく食べよう。2. バランスよく食べよう。3. 食に興味を持とう。4. 食の安全に関心を持とう」を軸に活動をすすめてきました。

5ADAY食育体験ツアーは、食育を通じて野菜や果物摂取の大切さを訴えていく運動です。食育インストラクターや店の人々に話を聞き、「買い物ゲーム」や「サラダ作り」で野菜や果物を直に見て、触って、味わい、学習します。2013年度は、県内21校で54回実施され、1,729人の児童が参加しました。



5ADAY食育体験ツアー 売り場での説明

◎子育てひろば

未就園児の親子を対象に友だち作りや楽しい時間を過ごせる場を22会場で提供し、親子で2,900人の参加がありました。

◎子育てふれんずニュース

編集委員が子育て世代で、楽しくためになる旬な情報をニュースにして2,300人に届けました。

◎幼児一時預かり

蛇田店のマミーサポートルームは震災復興支援料金サービス、プレ保育を実施し、利用者に喜ばされました。

◆2013年度の5ADAY食育体験ツアー開催の様子はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/shokuiku/5aday/>

みやぎ生協では、お取引先様の企業にご協力いただきメンバーを対象に商品学習会や工場・施設見学を実施しております。また、被災者支援として仮設住宅集会所での企画も実施いただき、住民の方々に喜ばれております。

2013年度見学会にご協力いただいたお取引先様(順不同・敬称略)

●株ナリス化粧品 ●キリンビール仙台工場 ●ホクト株 ●燐一の蔵 ●株パールライス宮城
●成田食品株 ●サンスター株

2013年度学習会にご協力いただいたお取引先様(順不同・敬称略)

●三菱食品株 ●バスクリーン株 ●小川珈琲株 ●服部コーヒーフーズ株 ●UCC上島珈琲株
●森永製菓株 ●雪印メグミルク株 ●株明治 ●カゴメ株 ●大塚製薬株 ●ユウキ食品株 ●フジッコ株
●太子食品工業株 ●株みすずコーポレーション ●株MNJテールサービス ●日清オイリオグループ株
●株ナリス化粧品 ●伊那食品工業株 ●ハラダ製茶株 ●石井食品株 ●エバラ食品工業株
●オタフクソース株 ●ブルドックソース株 ●キッコーマン食品株 ●ハウス食品株 ●エスビー食品株
●株クラブコスメティックス ●住友スリーエム株 ●株マルハニチロ食品 ●ホクト株 ●大塚食品株
●株ジエシコムサ ●㈲マッププランニング ●株仙台水産 ●株伊藤園 ●カタギ食品株
●白鶴酒造株 ●サンスター株 ●カルビス株 ●株クレハ ●株の素冷凍食品株 ●イトアンド株
●ライオン株 ●株ナイード ●株ヤマダフーズ ●株ミツカン ●キユーピー株 ●アサヒ飲料株
●株ニチレイフーズ ●株日本香堂 ●クラシエホームプロダクツ販売株 ●株日専連ライフサービス
●伸栄商事株 ●株アイケイ ●森永乳業株 ●東北電力柏石巻営業所 ●株志田金
●株マルハニチロ食品 ●株パールライス宮城 ●成田食品株 ●株コモ ●株協同乳業 ●ヤマキ株
●白雪デイリー株 ●株タカキベーカリー ●株徳山物産

◎たべるたいせつ料理教室

米を主食にした日本型食生活の学習と、主菜・副菜のそろったごはんメニューの調理をする料理教室を5会場で開催し、91人のメンバーが参加しました。



◎食のかたりべ

みやぎ生協の食の政策を学び、学んだことを他のメンバーに伝える「食のかたりべ」は48人が登録し、各自の工夫をこらした講師活動が展開されました。

◎キッズキッチン・親子キッチン

子ども達に食の大切さと楽しさを考えてもらい、カルシウムの学習をする料理教室を5会場で開催し109人が参加しました。調理して食べる楽しさを実感しました。



「子育てひろば」の様子

くらしと豊かな地域づくり

◎こ～ぶくらしの助け合いの会

こ～ぶくらしの助け合いの会は「困った時はお互いさま」とメンバーどうしの助け合い活動として1985年に設立されました。2000年の介護保険制度導入時と2011年3月に発災した東日本大震災時には、活動時間が一旦減少しましたが、介護保険制度の改定の影響やメンバーへの認知度が少しづつ広まることから2013年度は34,127時間、19,743回となり、活動は着実に広がっています。

70歳以上の方が利用会員数の70%を占める助け合いの会にとって、介護保険制度との関係も密接です。今後、介護保険制度の大幅な見直しにより、助け合いの会への依頼がさらに高まることが予想されます。メンバーから寄せられる期待に応えるためには何が必要なのかなど、2013年度に「あり方検討プロジェクトチーム」を立ち上げ、課題解決に向けて検討を重ねました。その最終報告では、地域代表理事やこ～ぶくらし委員会との連携をさらに強めること、活動会員が少しでも活動しやすいようにするための活動時間や活動謝礼の見直しをすることなどが提案され、2014年度から実施されます。

また、活動会員を広げるために「はじめて講座」が昨年を上回る17会場で開催され、76人のメンバーが参加し、39人の方が新しく活動会員となりました。



ふれあい活動。「いかがお過ごですか?」とプレゼントを持って高齢の利用会員のお宅を訪問します



新入会員研修では活動に入る際の心がまえなどをお伝えします

て登録をいただきました。これからも、お知らせを強め、地域の様々な団体と連携しながら、「困った時はお互いさま」の活動を広めていきます。



活動会員の「学習＆活動報告会」

こ～ぶくらしの助け合いとは

住み慣れたまちで暮らしていくために、困った時はメンバーどうし助け合いましょうと1987年に設立されました。活動は「やってあげる」「やってもらう」関係ではなく、お互いに対等な立場にたつため、利用会員の支援してもらう気持ちの負担を軽くするために有償で行います。

会員になるためにはみやぎ生協のメンバーであること、入会時には1,000円(翌年以降は年会費1000円)が必要です。

会員数:活動会員830名・利用会員1,422名・賛助会員345名(2014年3月20日現在)

◎ふれあい活動

●福祉共同作業施設とメンバー・地域住民との交流を目的にした、秋まつりなどへの福祉共同作業施設の出店がのべ31エリア48施設で取り組まれました。

●高齢者と一緒に楽しいひとときを過ごす「ふれあいお食事会」が、桜ヶ丘店で開催され、146人の高齢者と85人のボランティアが参加しました。

●福祉共同作業施設へのメンバーの見学は10回行われ、197人が参加しました。また、福祉共同作業施設の方を講師にお迎えした「さをり織り」体験の出前講座が1回取り組まれました。



社会福祉法人太陽の丘福祉社会仙台ローズガーデンの見学

◎福祉共同作業施設への支援

●ふれあい製品のお店「はあと」

セラビ幸町店にあるふれあい製品のお店「はあと」は「仙台市障害者販売業務訓練等事業」を行う場所の一つです。福祉施設で作られた製品の展示・販売が行われ、障がいのある方が店舗での販売・接客を通して一般就労に向けた経験を積み、社会体験や人間関係など視野を広げる機会となっています。店舗の無償提供を継続し、のべ309人がボランティアとして協力しました。

●ありのまま舎会報折り込みボランティア

西多賀にある社会福祉法人ありのまま舎で毎月発行している会報の折り込み作業に、のべ38人がボランティアで協力しました。



平和とくらしの見直し活動

◎ヒロシマ平和行動

毎年、メンバーからの平和募金の補助で日本生協連が主催しているピースアクションinヒロシマに参加しています。親子や大学生が参加し、その後に報告会を多数開催しています。参加者からの生の声は参加者に多くの共感を呼びました。



「ピースアクションinヒロシマ」に参加したみなさん

◎仙台戦跡めぐり

青葉山や榴岡公園付近には第二次世界大戦の戦跡がたくさんあり、戦跡をめぐる催しを開催しています。その他、自衛隊の王城寺原演習場の見学会も開催しています。



仙台戦跡めぐり

◎消費者力アップのために

急速に広がるインターネット被害の現状とその対策について、消費者力アップ講座「増えるネット被害!そのメール、アプリ大丈夫ですか?」を開催しました。パソコンやスマートフォンが普及するにしたがって、増える被害の対処方法はどうすればいいのか、また未然防止の方法はどうするのかなど約70人が参加し学習しました。今後も消費者教育の取り組みはますます重要になっています。

◆平和とくらしに関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/heiwa/>

◎沖縄戦跡・基地めぐり

4月26日～28日に平和募金の補助で4家族12名が沖縄戦跡・基地めぐりに参加しました。4月6日に報告会を行い38名が参加しました。参加者の事前学習をしっかり行ったため、内容の濃い報告で参加者の感想も「感動した」との声が多数ありました。



沖縄戦跡・基地めぐり参加者による報告会

◎みやぎ憲法九条の会の活動

平和とよりよい生活のために、憲法九条を守ることを重視し会の活動に参加しています。11月10日には仙台国際センターで、みやぎ憲法九条の会の主催で「憲法9条を守り生かす宮城のつどい2013」が開催され約1,000人が参加しました。

その他、憲法学者を招いての憲法学習会には86人が参加し、若手弁護士を講師にした地域開催の憲法出前講座は16回開催し196人が学習しました。



「憲法9条を守り生かす宮城のつどい2013」で講演する渡辺治氏（一橋大学名誉教授）

地域社会への貢献

◎国際協力の取り組み

家庭や職場にある換金できるものを寄付することで国際貢献できる取組みを2011年から始めました。特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドに、切手や未使用部分のある各種カードなどを送ることでアフリカやアジアの5つの開発途上国の自立などの支援に貢献しています。

また、購入を通じて貢献できる国際協力活動として共同購入で「フェアトレード商品」を取り扱っています。フェアトレード商品検討会は毎年2ヶ所で開催し、人気商品をチラシに載せています。



フェアトレード商品検討会の様子

◎指定募金『ネパール・地域主体の女性と子どものためのプログラム』および、『CO-OPコアノン・スマイルスクールプロジェクト』でアンゴラの教育支援に協力

毎年390万円ずつの協力をしていたネパールの指定募金は、9年間の支援の成果があり2013年で終了します。2014年からは、東ティモールの指定募金が予定されています。全国の生協で取り組んでいるアンゴラへの指定募金は、過去3年間で約3千万円となり、今後も継続されます。



ネパールで見たユニセフの看板
“平和に生きることが子どもの権利です。
平和な環境を作ることが大人の役目です”



アンゴラ:30年の内戦を経て、学ぶことの楽しさを実感する子どもたち



全ての店舗でハンド・イン・ハンド(募金活動)を行いました

◎ユニセフの取り組み

開発途上国の子どもたちの命と健康を守り、未来を支えるユニセフ支援が継続して取り組まれ、店舗等でのハンド・イン・ハンド(募金活動)や対象商品を購入することでユニセフに協力するキャンペーンも旺盛に行われました。

■2013年度ユニセフ募金額

メンバーからの一般募金	5,968,935円
お取引先様キャンペーン募金	1,199,205円
牛乳パック回収による募金	2,419,599円
ペットボトルキャップ回収による募金	38,966円
フィリピン台風緊急募金	6,694,463円
合 計	16,321,168円

■ユニセフ募金応援キャンペーンにご協力いただいたお取引先様 2013年度第1期(10月～11月):42社、第2期(2月):47社 (順不同 敬称略)

(株)J-オイルミルズ、UCC上島珈琲(株)、UHA味覚糖(株)、アサヒ飲料(株)、アサヒフードアンドヘルスケア(株)、アース製薬(株)、(株)あらた、伊藤ハムディリー(株)、江崎グリコ(株)、エスビー食品(株)、エバラ食品工業(株)、オタフクソース(株)、花王カスタマーマーケティング(株)、カゴメ(株)、上山製紙(株)、カバヤ食品(株)、カルビー(株)、キッコーマン食品(株)、牛乳石鹼共進社(株)、銀河フーズ(株)、コーセーコスメポート(株)、国分(株)、小山産業(株)、サンエイ海苔(株)、(株)シーテック仙都、ジャパンフリートレ(株)、昭和産業(株)、(株)スミフル、仙水デイリー(株)、仙台コカ・コーラボトリング(株)、(株)千鳥屋製麺所、(株)東流社、日清食品(株)、日清オイリオグループ(株)、日本ケロッグ(合)、日本生協連、日本製紙クレシア(株)、日本製粉(株)、日本ハム東販売(株)、ハウス食品(株)、はごろもフーズ(株)、(株)不二家、プリマハム(株)、フルタ製菓(株)、ボッカサッポロフード&ビバレッジ(株)、丸大食品(株)、(株)マルハニチロ食品、(株)ミツカン、三菱食品(株)、(株)明治、モランボン(株)、森永乳業(株)、ヤクルト本社(株)、ヤマザヤ醤油(株)、(株)ヤマダフーズ、雪印メグミルク(株)、ユニ・チャーム(株)、ライオン(株)、ロッテ商事(株)

◎首長・議員懇談会

震災後の地域の復興や、被災者支援、私たちの暮らしの安全について、国や行政に対して意見や要望を伝えます。自治体や議員活動の取り組みを学び、意見を交換する場として毎年開催しています。2013年度は18自治体、11地域の県会議員15名、仙台市会議員17名、そしてメンバーは652名が参加し大きな取り組みとなってきています。



仙台市太白区で実施した議員懇談会の様子



◎こ～ぷほっとわ～く助成金2013年度助成

2013年度は、36団体に9,796,000円の助成を行い、これまでの助成累計はのべ390団体765,940,950円になりました。



こ～ぶほっとわ～く助成金贈呈式

こ～ぶほっとわ～く助成金助成団体一覧

ボランティアサークル こだま会
みやぎ子育て・女性健康支援センター
特定非営利活動法人 フェアトレード東北
コムギコ会
「支援者の寺子屋」実行委員会
NPO法人地球対話ラボ
特定非営利活動法人 笑が家(わがや)
心のネットワークみやぎ
ボーダレスアートクラブBAC仙台
宮城言友会
NPO法人World Open Heart
特定非営利活動法人 夢みの里 学童クラブ びのっちお
特定非営利活動法人輝らる会
公益社団法人 日本てんかん協会宮城県支部
長町まさらいん(新しい街を考える会)
こども～感ばにー
復興支援団体プラスネオ
仙台市ほほえみの会(里親会)
特定非営利活動法人 亘理いちごっこ

2013年度上期
助成数:19団体
助成金 494万6千円

ココロのびのび★プラネット
わらべっこ
シニヤ・ワーカーズコーポ仙台
特定非営利活動法人 輪っか
公益社団法人 宮城県母子福祉連合会
特定非営利活動法人 ソイプラム
NPO法人 仙台傾聴の会
特定非営利活動法人 輝らる会
岩沼おやこ劇場
みやぎ夢燈花
アリエッティの会 アリエッティのひろばプロジェクト
特定非営利活動法人 ネットワークオレンジ
SARAI(ふるさと)
びすた～リードマーケット
特定非営利活動法人みやぎ発達障害サポートネット
MANA'S石巻子育てサポート
誰もが暮らしやすいまちづくりをすすめる仙台連絡協議会(愛称:条例の仙台)

2013年度下期
助成数:17団体
助成金 485万円

今まで これからも

こ～ぶほっとわ～く 助成金

1992年にみやぎ生協創立10周年を記念して「こ～ぶほっとわ～く基金」を創設し、年2回、宮城県内で地域福祉向上のために活動している団体や個人を支援・育成するために助成してきました。
2013年度より、「こ～ぶほっとわ～く助成金」として生まれ変わりました。年2回それぞれ500万円(年間1,000万円)を上限に、県内の民間団体、ボランティアグループによる地域福祉活動、調査研究活動、シンポジウム開催などに助成を行っています。

◎募金

「みやこ映画生協」の被災地支援と映画館維持のための募金

岩手県生協連の会員生協である「みやこ映画生協」からの呼びかけに応え、こ～ぶ文化鑑賞会会員とみやぎ生協職員で、「みやこ映画生協」の被災地支援と映画館維持のための募金活動に取り組みました。寄せいただいた募金は、「みやこ映画生協」で実施している被災地を回る無料巡回上映会や、デジタル機械導入に役立てられました。

取組み期間

2013年6月25日から7月20日まで

総額

350,547円

「フィリピン台風緊急募金」

11月8日にフィリピンに上陸し甚大な被害をもたらした台風ハイエンにより被災した子どもたちへの支援のため、日本ユニセフ協会の呼びかけに応え、「フィリピン台風緊急募金」活動に取り組みました。寄せいただいた募金は、被災した400万人の子どもたちとその家族に対する支援に役立てるため、日本ユニセフ協会へ送金しました。

取組み期間

2013年11月21日から12月20日まで

総額

6,694,463円

「つながろうCOOPアクションくらし応援募金」

日本生協連が全国の生協に呼びかけている「つながろうCOOPアクションくらし応援募金」として「福島の子ども保養プロジェクト」(福島の子どもたちが、週末や休み期間に低線量の地域で過ごす活動)と「被災地生協のボランティア活動」(人と人とのつながりをつくるためのサロン活動を中心としたボランティア活動)への募金に取り組みました。寄せいただいた募金は、日本生協連へ送金しました。

取組み期間

2014年1月21日から3月20日まで

総額

1,806,074円

◎石巻の文化とコミュニティづくりの拠点

イトピアホール

文化会館イトピア(通称イトピアホール)は石巻の文化とコミュニティづくりの拠点として2012年10月にオープン。オープン以来、商店会や復興のイベント、カルチャースクールなど住民同士が交流できる場として地域に根付いた取り組みを行い、約8,400名が利用しています。



文化会館イトピア



くらしに役立つ 事業活動のために



店舗

○お買い物の時間と空間を大切にし、人にやさしい店舗に

みやぎ生協のお店は宮城県内に46店舗。毎日8万人近いメンバーに利用していただき、年間供給高は707億円になります。

探しやすい売場・選びやすい商品陳列・見やすい案内表示はもちろん、来店したメンバーに笑顔と気配りある親切な応対をこころがけています。全店に「サービス・ケア・アテンダント（お年寄りやお身体の不自由な方々、困っている全ての方々へのサービス）」の資格を持った職員を配置し、高齢者やお身体の不自由な方・お困りの方など、全ての方々へあたたかいサービスを提供します。手話のできる職員の配置や体の不自由な方やお手伝いを必要とする方のためのインターホン、点字付き案内板も設置しています。

重い買物商品でも軽く動くアルミ製の買物カート車や、レジで楽にチェックアウトできるカートインスキナー一台も導入しています。

緊急時に備え、AED（自動体外式除細動器）の設置店舗を増やし、普通救命講習修了者も配置しています。

○環境にやさしく、災害に強い店舗に

新たにオープンした店舗では、太陽光発電設備やLED照明、省エネタイプ冷蔵冷凍設備を導入し、「エコストア」（環境配慮型店舗）の仕様を各種取り入れたほか、冷蔵冷凍設備には従来のフロンに比べ地球温暖化効果が極めて少なく温室効果ガスの削減に最も期待される「自然冷媒」（CO₂）を採用しています。

災害時の被害を少なくするため、天井に揺れ止めを設置するなどの耐震化を図り、天井に取り付けるサイン（表示物）などは軽い材料を使用しています。

災害時の緊急対応を想定して、長時間使用可能な非常用自家発電設備を備え、ライフラインが復旧するまで継続営業ができるように、オール電化施設としました。また、断水・停電時に受水層内の水が利用できるよう散水栓（蛇口）を設置し、万一の時に備えます。



店舗屋上の太陽光発電設備（塩釜米町店）



◎毎週木曜日、シニアメンバーデー開催中

60歳以上のメンバーを対象にしたシニアメンバーデーを毎週木曜日に開催しています。

お買上げ1,000円(税込)ごとにスタンプを一個押印。スタンプが10個たまると300円のお買い物割引券としてお使いいただけます。シニアメンバーに登録してご利用ください。



◎コープポイントで暮らしお得に

お買物金額300円(税込)ごとに1ポイントが貯まるコープポイントが人気です。COOPトリプルカードでお支払いただくと2,000円以上(税込)のお買上げでポイントがいつでも2倍になるサービスや、ポイント倍増デーの定期開催サービスも実施しています。



◎キャッシュレスで楽々 COOPトリプルカード

COOPトリプルカードは、みやぎ生協の他に各種専門店で使える日専連カード、国内外で使えるJCBカードを1枚にまとめた頼もしいカード。年会費は無料です。

生協店舗ではキャッシュレスでお買い物が可能ですが。公共料金や新聞・携帯電話などの各種お支払いにも利用できます。



◎生産部(旧CFT部)

CFT部は2014年度より名称を「生産部」に変更しました。豆腐・揚げ工場では、こーぶ委員会での試食、つどいでの学習会、工場見学会でメンバーに商品を紹介し、出荷量が伸び始めました。ミートセンターではメンバーの要望にこたえ「味付け肉」や「レンジアップ商品」など簡単に調理できる商品を開発しました。フッシュセンターでは、1月から小型店に生寿司、巻物、おにぎりの供給を開始しました。

10月からは、こーぶ委員を中心に「CFT応援団」を立ち上げ商品開発を進めています。今後は、調理が簡単な「食材セット」の開発をすすめ共同購入で提供する計画です。



ミートセンターの作業の様子

共同購入

◎事業を通して地域とともに高齢者の見守り活動をすすめています

現在、みやぎ生協は宮城県を含む県内全ての自治体と「高齢者見守りの取り組みに関する協定」を締結し、共同購入をはじめとした生協のさまざまな事業を通して「地域のみんなで見守る体制」づくりに協力しています。また、離れて暮らすご家族にメールで在宅状況などをお知らせするサービスも実施しています。

●共同購入職員による見守り活動

配送担当者がメンバー宅を訪問した際、気になることや異変を見た場合は所属事業所経由で各自治体の窓口に連絡します。

こーぶふれあい便、宅配水(アクアクララみやぎ生協)でも同様の見守り活動を実施しています。

●個配・夕食宅配メールサービス

個人宅配、夕食宅配の利用メンバーの週一回お届け時の在宅状況を、事前に登録したご家族にメールでお知らせしています。

●ガスあんしん見守りサービス

設定した日数を超えてガスの未使用状態が続いた場合、事前に登録したご家族に連絡する「ガスあんしん見守りサービス」を開始しました。

◎東北地方の復興応援に向けて

毎月1回「復興応援がんばろう東北」別チラシの発行を継続しました。東北地方に工場のあるコープ商品をご紹介し、「コープ商品を利用することで東北の復興を応援しましょう」との呼びかけをおこないました。また、このチラシには東北各地の被災者の方々による手作り商品のコーナーを設け、各地の復興グッズを39品目ご案内しました。毎回たくさんのメンバーにご利用をいただきました。



「復興応援がんばろう東北」チラシ



◎多くのメンバーの期待に応えるために

みやぎ生協の共同購入は県内10箇所の配送センターを拠点に、毎週14万7千人のメンバーにご利用いただき、年間供給高は294億円になっています。11月には県北エリアの配送をおこなう迫センターを、2014年2月には県南エリアの配送をおこなう柴田センターを、それぞれ新築移転しました。両センターとも長年にわたって共同購入の商品を県北、県南エリアのメンバーに配送する拠点として稼動していましたが、施設の老朽化とあいまって、利用メンバーの増加により施設が手狭となっていました。両センターとも今回の移転により、より多くのメンバーに利便性を提供できる事業所となりました。また、環境に配慮した事業所を目指し太陽光発電設備も導入しました。



2014年2月に新築移転した柴田センター

◎夕食宅配サービス

毎日の調理が大変な方に夕食用のお弁当を宅配する配食サービスは、1,000人のメンバーにご利用いただき1日あたり1,300食、週あたり6,500食をお届けしています。2014年1月からはサプライヤーの新工場も稼動を開始し、最新調理機器（スチームコンベクション、ブラストチラー）の導入により、今まで以上の品質でお弁当をお届けします。



くらしのサービス

◎メンバーの声から生まれたCO・OP共済

23万人のメンバーとその家族にご加入いただいています。

共済センターでは、県内36店舗に共済カウンターを設置し、CO・OP共済を広くご案内しています。「家族の保障について気軽に相談できるようになった」「自分の好きな時間に行って相談できるのが良い」などと好評をいただいております。

また、21名の共済専任担当者が、県内全域のメンバーを訪問し、加入手続きはもちろん、満期継続や保障相談をメンバーの立場でご提案しています。

震災から3年が経ち、異常災害見舞金のお支払いは19億円を超え、震災による共済金の支払いは16億円を超えていました。今後もメンバーのお役立ちを最優先にCO・OP共済の輪を広げて行きます。



店舗で気軽に相談ができる「共済カウンター」

◎コープトラベル

(株)コープトラベル東北は、みやぎ生協、いわて生協、生協共立社の出資で1994年に旅行事業を開始しました。国内はもとより、海外旅行手配のネットワークも充実しており、生協らしい暖かい配慮をモットーに旅行手配をしています。生産者と消費者が繋がっている生協だからこそできる産直交流事業の企画は参加者に好評です。また、被災地視察団の受け入れも数多く行っています。



コープトラベルの被災地視察・訪問



◎宅配水（アクアクララみやぎ生協）

リターナブルボトル（回収再利用）を使用し、環境資源にも配慮したアクアクララの宅配水事業を展開して8年目になるアクアクララみやぎ生協。利用者は約1万人になり多くの方から安心して美味しい水が飲め、いざという時、家庭の備蓄水としても活用できると喜ばれています。



アクアクララ配達風景

震災以降、みやぎ生協事業継続計画（BCP）と連動する取り組みで自社工場内に地下水くみ上げ施設と自家発電装置を設置しました。甚大な被害を及ぼす災害が起きた際は、製品の提供や生活用水の提供を行う機能を担うことができるようになりました。

衛生管理を強化するために、みやぎ食品衛生自主管理登録・認証制度に登録できました。この制度は、HACCP（ハサップ：危害分析・重要管理点）の概念を取り入れた手法により、自主的な衛生管理を促進し、食品の安全性を確保するためのものです。今後は認証を目指し衛生管理を強化しています。



アクアクララ製造ライン



生協店舗での宣伝活動

◎環境・省エネリフォームの取り組み

住まいのセンターでは、自然エネルギーによる発電とCO₂排出を削減することで環境保全に貢献できる太陽光発電と断熱ガラスの普及拡大に取り組みました。2013年度は、みやぎ生協の店舗店頭で、太陽光発電を導入した場合の発電量やコストなどをシミュレーションする「無料相談会」を延べ54回、断熱ガラスは64回実施しました。また、コープの快適リフォーム情報誌「Reフレッシュ」でも太陽光発電の特集を10回掲載し宣伝を強めました。太陽光発電を利用していただいたメンバーからは、「こまめに節電するようになった。」「天気を気にするようになった。」「発電量を毎日チェックするのが楽しい。」「停電になっても発電できるから安心。」という声を頂戴しています。

こーぷ福祉会

◎設立と歩み

社会福祉法人「こーぷ福祉会」はみやぎ生協の理念を介護事業で実践するために、みやぎ生協が設立母体となって1999年に設立され、2014年に15年目を迎えます。

「心豊かで健やかな暮らしのお手伝い」「優しさと思いやりを持ったひとづくりのお手伝い」「ふれあいとぬくもりのあるまちづくりのお手伝い」を基本理念に、デイサービスセンター、ヘルパーステーション、ケアプランセンターを備えた『こーぷのお家』を3ヵ所（桜ヶ丘・いしのまき・緑ヶ丘）で運営しています。また、訪問看護ステーション（桜ヶ丘・緑ヶ丘）、ケアプランセンター・福祉用具（八乙女ウィズ内）を設置しています。みやぎ生協桜ヶ丘店舗内では仙台市委託事業の桜ヶ丘地域包括支援センターを運営しています。デイサービスセンターでは1ヶ月平均1,845名が利用し、332名のボランティアが活動を支えています。

こーぷ福祉会の後援会会員数は163名、職員数は178名です。（人数は2014年2月現在）



こ～ぷのお家桜ヶ丘

◎こ～ぷ福祉会の2013年度の取り組みの特徴

①6月に開催した全体研修会では、「こ～ぷ福祉会ならでは」の介護の基本方針を作成するため、「介護の10の基本」を学び、利用者・家族の視点で現在のサービスを見直すことを確認しあいました。桜ヶ丘デイサービスセンターでは、利用者自身の自立力を高める介護を実現するため、座面と机の高さを利用者の身長に合わせた「六角テーブル」を利用した介護を始めました。この取組みをまとめ、他事業所にも広げます。



②「こ～ぷのお家いしのまき」が東日本大震災復興支援として2011年秋より月2回開催してきた「こ～ぷ福祉さん」は55回を数え、利用者は延べ1,057名、参加ボランティアは延べ605名となり、地域の高齢者がつながる場として広がっています。また、社会福祉法人協同福祉会(奈良県／生協が設立)、大和郡山ロータリークラブの支援で、「全国金魚すくい大会」石巻予選大会、本選に出場しました。全国の生協、生協立社会福祉法人から物心両面の支援を多数いただきました。



「全国金魚すくい大会」の様子

学校部・(株)宮城県学校用品協会

(株)宮城県学校用品協会とは：みやぎ生協100%出資の子会社。県内の学校への教材販売や家庭学習教材・学習教室、保険事業を取り扱っています。

◎学校・先生方に役立つ情報提供 『COOP授業に役立つ学習ガイド』

学校部では、みやぎ生協で行っている、環境・食・福祉・ユニセフなどの活動から、学校での学習素材として使えるものを『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』にまとめて掲載し、県内全小・中各学校へお届けし情報を提供しています。

※ビデオ貸出し、資料提供・頒布、生協店舗や取引先見学、生協事業所職場体験等の受入など



◎職場体験・見学の受入

職場体験実習・見学は店舗を中心に共同購入・学校部・ディサービスセンター・産直コースなどを設定しています。2013年度は職場体験・実習職場見学(121校)、食育体験店舗ツアー(21校54回1,729人)などの受入を行っています。

●職場体験・施設見学・体験学習のお申込手順

学校部受付【FAX】

研修受入窓口（総務部人事教育課教育担当）

各事業所責任者に受入要請

研修先が決定

総務部から申込みいただいた学校の責任者の方へ連絡

◎学校教材販売事業

みやぎ生協子会社の宮城県学校用品協会の学販部門は、県内すべての学校で使用する教材教具、備品、体育着などを取り扱っています。「よりよい教材をより安く」と言うテーマのもと、日常的に教育現場の先生方のご意見を聴き取り、児童生徒に役立つ、先生にとって指導しやすい教材の提供をモットーにしています。また、各小中学校教科研究会の編集、発行している出版物・図書の編集、販売支援をしています。代表的なものとしては、小中書写研究会の書きぞめ手本作成印刷、書きぞめ展開催や仙台市小学校教科研究会編集発行の夏休みドリル帳があります。



書きぞめ展示会の様子

◎こ～ぶ家庭教育センター

幼児～中学生までの家庭学習教材販売、学習教室、英会話教室事業を通して、子どもたちの学力向上、家庭学習の習慣づけの支援活動を行っています。



学習クラブ



研究活動助成金交付式

◎学校教育に役立てられている 宮城県学校用品協会の教育助成制度

宮城県学校用品協会では「小中学校の教育実践活動への助成を通じ、宮城県内の学校教育の進展に寄与する」ことを目的に、学校用品事業を通して生まれた収益の一部から「教育助成」を行い、さまざまな教育研究活動や授業に役立てられています。

主な教育助成内容として、学校研究活動助成・教育講演会・講習会講師紹介・派遣などを行っています。

コンプライアンスの徹底

◎公正な取引の徹底

「公正な取引の徹底」はみやぎ生協の事業活動にとって、もっとも重要なものであると同時に、お取引先様に対する最大の責務です。私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(独占禁止法)の第19条(不公正な取引方法の禁止)及び、一般指定第14号(優越的地位の濫用)に抵触するような優越的地位の濫用を行わないために、外部講師による学習会や部内での勉強会を定期的に開催しています。

◎外部通報制度

お取引先とみやぎ生協のホットラインを設け、何か問題があった場合に通報を頂く仕組みを作っています。通報いただいた場合には、必要な調査等を十分に行い、通報者に納得いただける対応を行うよう心掛けています。



◎各種法令の遵守

みやぎ生協が事業活動を行う上で遵守しなければならない法令等は多岐にわたります。

2013年7月より、事業活動に関係する法令等の改定を把握する仕組みを導入し、適切な対応を行えるようにしました。

◎お取引先とのパートナーシップ

毎年6月、お取引先の協力をいただきながら「みやぎ生協の方針説明会」を開催しています。これは、お取引先にみやぎ生協の次年度の方針をご理解いただき、よりよきパートナーシップを形成していく一助とする目的としています。

1982年にみやぎ生協が設立して以来続いている会で、2013年度はお取引先約800社、1,200名の方々に参加いただきました。



2013年度方針説明会



かけがえのない 自然・環境を 未来に残していく 取り組みを 進めています



理念・方針

◎環境理念

みやぎ生協は、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

1. 「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、メンバーとともに以下の4つの重点課題に取り組みます。
 - 1) 生協事業におけるCO₂の総量削減
省エネ機器、再生可能エネルギー、BDFなどの普及、拡大によるCO₂の総排出量での削減
 - 2) 事業からの廃棄物の削減・再資源化
事業及び家庭ごみの減量のための発生抑制、再利用、再生利用、熱回収などの推進
 - 3) 環境に配慮した地域社会の構築
市民（メンバー・生活者）、市民団体、自治体、行政などと環境に配慮した地域社会構築の推進
 - 4) 商品事業における環境配慮
みやぎ生協の産直品・地産地消商品、環境配慮商品の取り扱い強化
2. 環境に関する法規制及びみやぎ生協が受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守します。
3. 環境汚染の予防と自ら構築した環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4. 全職員及び業務委託先に教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

みやぎ生活協同組合 専務理事 宮本 弘

◆環境に関する取り組みの詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/kankyou/>



低炭素社会の構築に向けて

◎生協事業におけるCO₂の総量削減

みやぎ生協はCO₂削減長期目標(2020年までに2005年度比15%削減)に向け、事業におけるCO₂排出総量削減に取り組んでいます。

2013年度のCO₂総排出量は38,041トンと2005年度排出総量42,921トンに対し排出総量で4,880トンの削減、88.6%と着実に削減が進んでいます。また、排出量のピークだった2008年度の45,602トン(震災の影響のあった2011年度を除く)から7,561トンの削減(83.4%)となりました。既存店に導入してきた高効率の省エネ機器や、デマンドコントロール等の効果があらわれています。また継続して実施してきた省エネ運用の取組みが、全事業所で実施・維持されていることも要因となっています。



※2011年度は震災により多くの事業所が稼動できなかったことで減少しています。

◎エネルギー使用とCO₂削減を考慮した省エネ機器等の導入

店舗の冷凍・冷蔵機器や冷ケースの省エネタイプへの交換、LED照明への集中交換を実施しました。導入した省エネ機器による効果は従来機器と比較して電気使用量で年間383万kwh(1,620トン-CO₂/年)の削減になります。



人感センサーの冷凍ケース

◎低燃費車両の導入やバイオディーゼル(BDF)燃料への切替え

電気自動車は2台増車し、6台となりました。電気自動車用充電スタンドを9基増設し23基(本部5基、共同購入センター18基)としました。

店舗の廃食油を精製したBDF(バイオディーゼルフューエル)を使用した車両は、宅配4センターの配送車とリサイクルセンター車両に使用し、現在27台を運行しています。軽油代替燃料として使用したBDFの量は56,891ℓで、CO₂換算で年間149トンを削減したことになります。

◎共同購入部の2センターを建替え 環境配慮設備を導入しました

共同購入部の2センター「迫センター、柴田センター」の移転開設に伴い冷凍・冷蔵庫の触媒として「自然冷媒(CO₂)」を導入しました。

自然冷媒(CO₂)は従来のフロンに比べ地球温暖化効果が極めて少なく、温室効果ガスの削減に最も期待される冷媒です。また、今回採用したCO₂冷凍機は省エネ性に優れ従来のフロン冷凍機より使用エネルギーが少なくエネルギー起源CO₂も削減し地球温暖化防止に貢献します。



CO₂冷媒

◎再生可能エネルギー(太陽光発電)の導入

太陽光発電設備を、共同購入迫センター(10kw)、共同購入柴田センター(10kw)、蛇田店(50kw)の3事業所に設置しました。これにより太陽光発電施設は計11事業所、410kwとなりました。13年度の太陽光発電実績は383,149kwhと発電予測対比103%でした。日照時間、天候(冬季は積雪)によって発電は変化しますが、ほぼ予測どおりの発電量です。発電した電力は災害対策も考慮し、事業所の自家消費としています。

◎風力発電事業に取り組みます

再生可能エネルギー利活用を一層発展させるために、みやぎ生協は風力発電事業に取り組みます。みやぎ生協、いわて生協、コープあきたの3生協と3つの会社で「コープ東北グリーンエネルギー株式会社」に共同出資する形で風力発電事業を展開することとし、秋田市の日本海沿岸に2,500kwの風車を3基建設し、2015年度に発電を開始する計画です。



風車(イメージ)

循環型社会構築に向けて

みやぎ生協リサイクルシステムの全体フロー



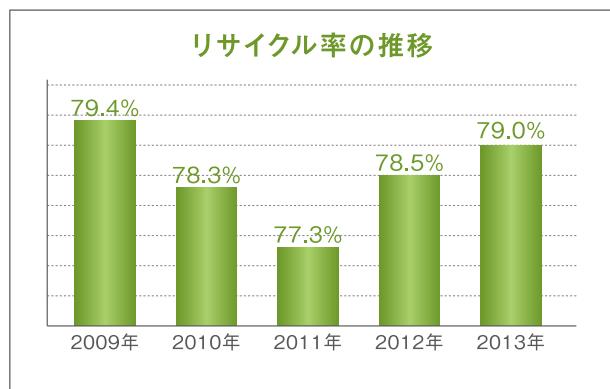
◎廃棄物の削減・再資源化の取り組み

2013年度の再資源化率は79%と目標を達成しました。事業所から排出される廃棄物を削減するために、店舗では生鮮・日配部門の廃棄ロス額削減と、一般廃棄物の排出量削減の取り組みを行いました。みやぎ生協全体では42.7トン削減しました。

再資源化では、1アイテム拡大する目標で取組み、店舗の衣料ハンガーを新たに再資源化する事が出来ました。



衣料ハンガーの再資源化



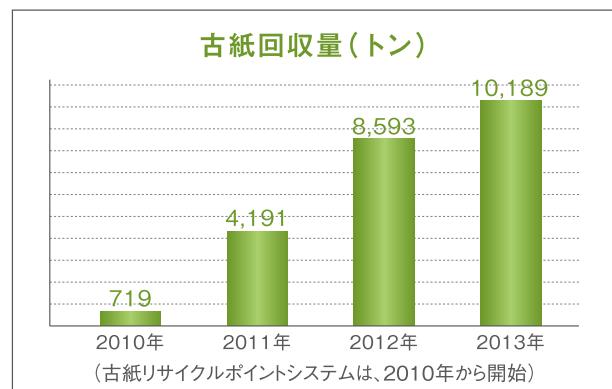
◎家庭用廃食油リサイクルの取り組み

①仙台市「家庭用使用済み食用油リサイクルモデル事業」に協力し、2013年5月10日より従来の3店舗（桜ヶ丘、高砂駅前、榴岡）に新たに3店舗（南小泉・富沢・高森）で回収を開始しました。回収した廃食油は7,410ℓと、12年比205.6%となっています。

◎古紙リサイクルポイントシステム

家庭ごみ削減の取り組みの一環として2010年度に8店舗に設置しました。設置店舗周辺のメンバーから好評をいただくとともに、その他の店舗への設置を望む声が多く寄せられ、2011年度は15店舗に設置。2012年度は設置できる店舗をさらに拡大し、合計32店舗となりました。2013年度は、ポイント2倍や3倍キャンペーンを年4回行い、なかでも旅行券が当るキャンペーンでは18,473人の応募があり大好評でした。

「古紙リサイクルポイントシステム」はメンバーが来店の際に古紙（新聞紙、チラシ、雑誌など）を持参し、店舗敷地内に設置した計量器付コンテナで重量を計測、その重量に応じてポイントが貯まり、一定ポイントになると、みやぎ生協の「割引券」が発行されるシステムです。



②名取市の廃食油回収に協力し、名取西店で回収した廃食油は1,502ℓでした。2012年比では、98.8%と若干低下しています。廃油回収ルールは定着しており、他の事業者店舗とともに、市の3R推進に継続した協力をなっています。

◆環境に関する取り組みの詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyagi.coop/member/kankyou/>

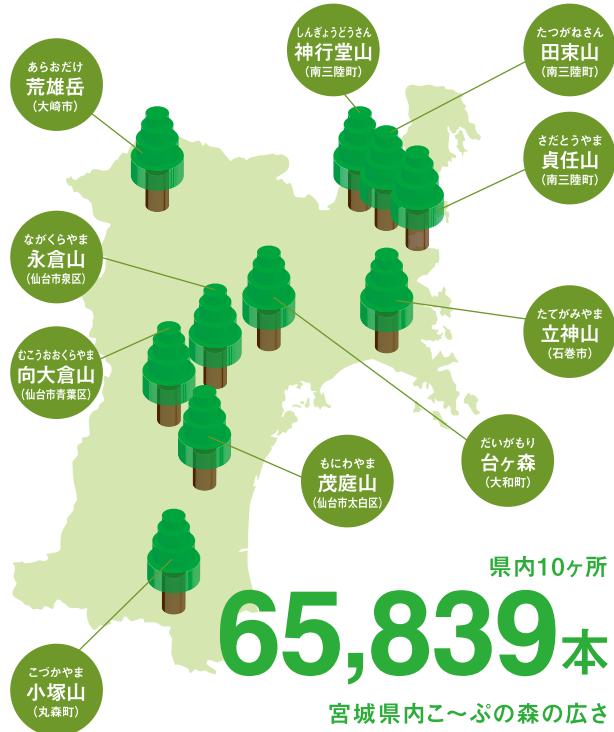


環境に配慮した地域社会の構築に向けて

◎“こ～ぶの森”的活動

宮城県内の自然と緑を豊かにするために、1992年から始まった“こ～ぶの森”的活動は2013年度に大和町「こ～ぶの森台ヶ森」と南三陸町「こ～ぶの森田東山(たつがねさん)」に新しい森をつくり、県内10ヶ所に広がりました。南三陸町の植林では、めぐみ野志津川産カキの生産者や継続的に南三陸町を支援している他生協、協賛企業の方など115人が参加して行なわれ、緑の再生に寄与し、被災地復興応援の活動につなげることができました。

それぞれの森で生物多様性保全などを実感する機会として観察会や体験会を開催しています。



5月12日「こ～ぶの森田東山」植林体験会

◆こ～ぶの森の活動についての詳細はこちらからご覧になれます。
<http://www.miagi.coop/member/kankyou/coop-woods/01.html>

◆みやぎの水辺ものがたりについての詳細はこちらからご覧になれます。
<http://www.miagi-mizube.com/>

◎年間を通じて家庭の省エネ、くらしの見直しに取り組みました

原子力発電に頼らない社会を目指すため、6月～8月の間「夏の省エネチャレンジ」に取り組みメンバー・職員1,694人が参加しました。

11月～1月には「くらし見直し冬編チャレンジ」に取り組み、914人が参加しました。省エネだけではなく、くらし全般の見直し活動につなげ、年間を通じた取り組みとしました。



夏の省エネチャレンジシート表紙

◎環境月間の取り組み

環境配慮商品の学習会を県内3ヶ所119人の参加で開催し、参加したメンバーを中心に地域での普及・啓発活動の広がりをつくりました。また、再生可能エネルギー学習会やキャンドルナイトの呼びかけ、ミニ省エネ学習会などを組み立てメンバー活動全体で環境月間の取り組みを行いました。



5月22日 環境配慮商品学習会

◎生物多様性を育む活動をひろげました

震災の影響で2年間休止していた「水辺の観察と水質測定」を7月1日～8月25日の期間取り組み113人の参加がありました。水辺の観察会を親子16人の参加で開催しました。また、20年間の測定のデータをまとめたDVD「みやぎの水辺」を制作し、測定の事前学習や環境学習の資料として活用します。



7月13日 蒲生干潟での水辺の観察会

商品事業における環境配慮

◎環境配慮商品の普及拡大

□環境配慮商品基準

環境配慮商品基準は、みやぎ生協及びコープ東北サンネット事業連合が開発した商品並びに、みやぎ生協が取扱う商品の中で「環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められる商品」の選定要件等を定め、商品事業を通して環境保全活動に取り組むことを目的としています。

□環境配慮商品基準と同等品

環境配慮商品基準には、基準と同等の環境価値を持つ商品(同等品)や、「めぐみ野」品、そして、地場商品は域内自給を重視する立場からこれらの商品もみやぎ生協独自の基準として環境配慮商品としています。

MSC(持続可能な漁業のための原則と基準)

MSCマークのついた商品は、海の資源を枯渇させないよう、量や漁法・漁の時期などに配慮して獲った魚を原料としています。



FSC(森林管理の原則と基準)

FSCマークのついた商品は、環境保全の点から見て適切で、社会的な利益にかない、経済的にも継続可能な形で管理された木材を使用しています。



特別栽培農産物

生産された地域の慣行栽培レベルに比べて、節減対象農薬の使用回数が50%以下、化学肥料の窒素成分量が50%以下、で栽培された農産物です。



CFP(カーボンフットプリント)

環境への負荷を削減したことを示すマークではありませんが、商品の原材料の調達・製造から廃棄リサイクルまでのすべての過程で排出される二酸化炭素(CO₂)の量を商品に表示したものです。※CO₂の排出量は、商品によって異なります。



エコマーク

「生産」から「廃棄リサイクル」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。



有機JAS

一定の基準で農薬や化学肥料に頼らずに作られた農産物とその製品です。



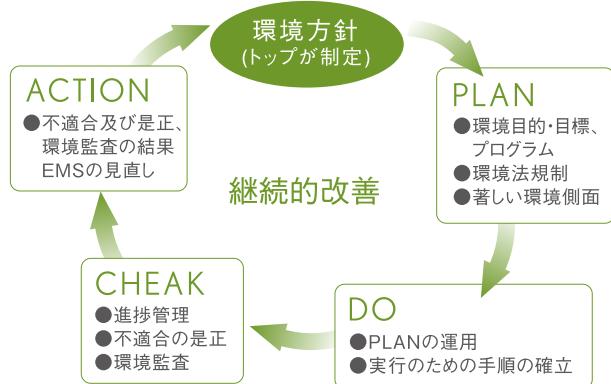
MEL(マリン・エコ・ラベル)

資源と生態系の保護に積極的に取組んでいる漁業を認証し、その製品つけるマークです。



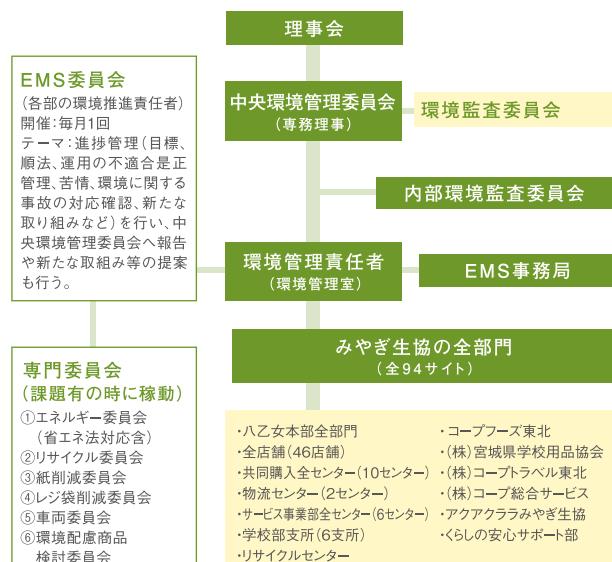
◎環境マネジメントシステムの推進(PDCAサイクル)

1998年度にISO14001認証を取得して以来、PDCAサイクルに基づくEMS(環境マネジメントシステム)を構築し運用しています。



◆環境に関する取り組みの詳細は下記のURLからご覧ください。
<http://www.miyan.coop/member/kankyou/>

◎環境管理体制





外部環境監査、ISO審査、内部環境監査

◎外部環境監査

みやぎ生活協同組合

理事長 斎藤 昭子様

2014年4月19日

環境監査委員会

委員長 遠藤 智栄	大友 恵里子
委員 栗津 洋子	高橋 春男
高橋 朋子	高橋 俊彦
中田 由紀子	

当委員会は、みやぎ生協環境管理規程第14条、同環境監査規程第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

【環境監査の実施日】

2013年 11月16日 2013年度上期環境監査「書類監査、(リライラベル見学)」

2014年 4月19日 2013年度環境監査「書類監査および総合監査」

【評価事項】

1. 被災地域を拠点とする生協として、引き続き地域社会に根ざした環境活動に取組み着実な成果を上げていること。
2. これまでの太陽光発電に加え、風力発電など新しいプロジェクトを始め自ら再生可能エネルギーの供給事業の取組みに着手したこと。
3. 低炭素社会の実現に向け、二酸化炭素排出削減の目標値を達成し、総排出量を削減したこと。
4. 古紙回収ポイントシステムが地域に根付いてきたことにより古紙回収量が増え、家庭からの廃棄物の削減・再資源化が進んだこと。
5. 産直品・環境配慮商品であるめぐみ野商品を震災後も継続して取り扱い、生産者の復興を支援し、生産者とメンバーの信頼関係を維持したこと。
6. 環境配慮商品などの学習会を実施し、周知普及を行ったこと。
7. 住まいに関わる低炭素化を進めるために、ペアガラス、エコ給湯器などの環境に配慮した商品の性能を啓蒙しその普及に努めたこと。

【指摘事項】

1. 電力等エネルギー消費量の詳細なデータを蓄積し、今後の環境配慮・省エネルギー型店舗設計に活かしていくこと。
2. 膨大な環境活動の多年度にわたる数値データをグラフ等を用いて「見える化」すること。
3. メンバーの特性に則した暮らしや住まいの環境配慮行動につながる情報を提供すること。
4. メンバーが取り組んだ環境活動を、生協の成果として評価する方向を検討すること。

以上

◎内部環境監査

○実施期間：2013年7月12日～8月31日、対象部門全事業所（80サイト）

○監査員：監査14チーム（2人）主任監査員1名、監査員27名（内、コープあいづ1名を含む）

○監査所見：総数44件、重大0件、軽微0件、改善の意見：観察16件、推奨事項10件+評価18件

○その他：内部環境監査員セミナーを開催し、新たに2名養成しました。

監査結論	①みやぎ生協の環境マネジメントシステムは、ISO14001：2004 規格の要求事項に適合して構築され、「適合、かつ概ね適切に実施、維持されている」と判定します。 ②監査重点項目は、一部運用管理の徹底不足の事業所がありましたが、再教育を行い改善がされています。 ③法規制の順守では「法定点検、自主基準等」についても各部署で適切に管理されています。
------	---

みやぎ生協は、1998年に取得した外部審査機関によるISO14001認証制度から卒業し、2013年度からは、自主的に環境マネジメントシステム（EMS）を運用しています。

◎環境会計

- ◆環境保全の投資コスト額：5億1,737万円（前年6億1,384万円）
投資の主なものは、昨年に引き続き太陽光、LED照明、高効率冷凍機などの省エネ設備の導入費
 - ◆費用額：4億7,373万円（前年4億1,148万円）
費用の主なものは、再資源化及び廃棄物の処理費や温暖化防止に伴う機器の維持管理費
 - ◆環境保全対策に伴う経済的效果（有益）：2億9,864万円（3億1,925万円）
再資源化による売却費や省エネによる電気料の削減等
- ※（ ）内は前年の数値、一部修正を行っています。
- ※環境関連の寄付・募金 合計1,937万円

◎環境に関する法規制とご意見

- ◆環境に関する法規制27項目、その他7項目あり適切に管理を行いました。
- ◆環境に関するご意見は15件でした。

主な項目	件 数
店頭リサイクル等の事業について	8件
省エネ・省資源について	3件
商品容器包装・レジ袋について	2件
環境とサービスについて	1件
環境に配慮した商品について	1件

2013年度 生協活動

エネルギー資源、水資源		
項目	2013年(2012年)	前年比
電力	7,345(7,423)万kwh	98.9%
ガス	59(63)万m ³	94.3%
水	38(38)万m ³	99.3%
重油	201(496)kℓ	40.5%
灯油	204(206)kℓ	99.3%
ガソリン	221(220)kℓ	100.3%
軽油	740(750)kℓ	98.7%
車両LPG	30(64)kℓ	47.4%
BDF	57(37)kℓ	152.0%

主な資材の消費		
<容器・包装材>		
資材	2013年(2012年)	前年比
レジ袋(紙袋含)	21(19)	111.6%
ロールポリ袋	52(48)	108.4%
包装紙	6(6)	104.1%
簡易包装紙	0.36(0.42)	84.0%
PS(発泡)トレー	86(94)	91.7%
PS(発泡)以外のトレー	156(158)	98.8%
ラップ	39(39)	98.6%
その他のポリ袋	79(81)	98.3%
<紙類>		
紙類	2013年(2012年)	前年比
コピー紙	126(121)	104.7%
コピー紙以外の紙	6,850(5,819)	117.7%

地球温暖化に関わる排出		
事業上排出したCO ₂ :38,041t(12年度39,321)t/CO ₂ (委託車輌除く)		
(単位:t)		
資材	2013年(2012年)	前年比
電 気	31,069(31,262)	99.4%
重 油	545(1,326)	41.1%
灯 油	509(506)	100.5%
都市ガス	112(109)	102.8%
LPG	3,299(3,531)	93.4%
ガソリン	513(511)	100.4%
軽 油	1,943(1,968)	98.7%
車輌LPG	51(108)	47.2%
合 計	38,041(39,321)	96.7%

環境保全活動によるCO ₂ 削減量		
一化石燃料の代替エネルギー(換算)――		
項目	2013年(2012年)	前年比
BDF(t)	149(98)	152.0%
太陽光(t)	162(142)	113.9%
電気自動車(t)	10.0(4.7)	212.7%

レジ袋有料化(換算)――

資材	2013年(2012年)	前年比
レジ袋削減量(万枚)	2,915(2,948)	98.9%
CO ₂ 削減量(t)	700(707)	99.0%

古紙リサイクルポイントシステム(換算)――

項目	2013年(2012年)	前年比
CO ₂ 削減量(t)	1,946(1,641)	118.6%

合計 2,967t の削減効果

入口
事業で
使用した
エネルギー
&資材等

出口

みやぎ生協

◆事業所

店舗 46店舗

共同購入 宅配10センター
家電センター
物流セットセンター

サービス保障事業 サービスグループ
住まいのサービス
プリケーションセンター
共済センター
協同保険センター

生産部(CFT) 魚センターイン
肉センターイン
豆腐ライン
揚げライン

(株)宮城県 5支所
学校用品協会 こーぶ家庭教育センター

(株)コープトラベル東北

(株)コープ総合サービス・宅配水センター

◆車両使用台数

・ディーゼル車 413(417)台
・BDF車 27(14)台
・ガソリン車 237(220)台
・LPG車 4(16)台
・電気自動車(EV車) 6(4)台
・ハイブリッドトラック 13(9)台

※()内は2012年度の数値

出口

■廃棄物

廃棄物の排出量(再資源化以外) : 4,179t(12年度4,221t)
※再資源化により削減できた廃棄物量 ⇒ 15,673t(15,413t)

■生産部CFT(食品加工場)からの排水

BOD排出量(20PPM以内) : 0.384t(12年度0.238t)

※引き取り廃家電

廃家電品排出量
297台
(12年度336台)

と環境のかかわり

再資源化
(メンバー)

メンバーの協力による再資源化【店頭等の分別回収した再資源化量:15.483t】						(単位:t)				
回収品目	2013年(2012年)	前年比	リサイクル率	再資源化		回収品目	2013年(2012年)	前年比	リサイクル率	再資源化
ペットボトル	198 (169)	116.9%	95.9%	再生原料		卵パック	39 (38)	104.4%	53.1%	ペット原料
紙パック	198 (205)	96.2%	124.3%	トイレットペーパー・古紙		クリーニングハンガー	45 (43)	104.7%	—	再利用
トレー	154 (145)	106.0%	84.3%	再生トレー		筒型乾電池類	3 (3)	112.4%	—	原料化
アルミ缶	88 (77)	114.9%	43.1%	再生原料		ペットボトルキャップ	3 (5)	60.1%	—	再生原料
共同購入チラシ	4,566 (4,228)	108.0%	73.7%	古紙の原料						
古紙RPS	10,189 (8,593)	118.6%	—	古紙の原料		仙台市古紙回収庫	71 (64)	111.1%	—	古紙の原料

再資源化
(事業)

事業から発生する排出物の分別、再資源化 ※事業系再資源化率=再資源化重量÷(再資源化重量+廃棄物重量)					(単位:t)			
○古紙除く:15,673.0t ÷ (15,673.0t + 4,178.6t) = 79.0% (12年度 78.5%)								
○古紙含む:25,862.3t ÷ (15,673.0t + 4,178.6t) = 130.3% (12年度 122.3%)								
回収品目	2013年(2012年)	前年比	再資源化		回収品目	2013年(2012年)	前年比	再資源化
紙	361 (346)	104.5%	古紙に再生		おから	409 (364)	112.4%	家畜飼料
古紙回収	10,189 (8,593)	118.6%	古紙に再生		魚腸骨	218 (225)	96.9%	家畜飼料・肥料
共同購入チラシ	4,566 (4,228)	108.0%	古紙に再生		牛脂	197 (198)	99.5%	油・飼料
ピン・スチール・アルミ	121 (114)	106.2%	再資源化		揚げロス	21 (17)	120.4%	家畜飼料
発泡スチロール	245 (249)	98.7%	再生プラスチック		野菜果物ケズ	870 (755)	115.3%	堆肥化
ダンボール	7,826 (7,897)	99.1%	古紙に再生		廃プラスチック	163 (182)	89.5%	高炉還元剤
食用麻油	310 (316)	98.0%	BDF		粗大ゴミ	365 (522)	70.0%	原料化
○食品リサイクル率					計(古紙含む)	25,862 (24,003)	107.7%	
食品リサイクル量 2,155.4t ÷ (食品リサイクル量2,155.4t + 生ゴミ量835.7t) = 72.0% (12年度70.3%)					計(古紙除く)	15,673 (15,413)	101.7%	

環境関連への寄付・募金

- ・緑の基金:1,113万円(有料レジ袋、お取引先様等)・ユニセフ:246万円(牛乳パック、ペットボトルキャップ)
- ・MELON:344万円(MELON商品券)・環境保全活動:234万円(有料レジ袋)

計 1,937万円

みやぎ生活協同組合
CSR Report 2014 2013年度
社会・事業・環境活動についての報告書

発行日：2014年5月19日

発 行：みやぎ生活協同組合
〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

お問い合わせ先

○総務部機関運営課 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821
○環境活動に関する詳細は環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス みやぎ生活協同組合 <http://www.miyagi.coop/>
本報告書はホームページに掲載、ダウンロードできます。

